

蒲 郡 市

イネーブリングシティ

基本計画



幸福を感じながら健康で住み続けられるまち 「イネーブリングシティ」の形成を目指して



蒲郡市は、豊かな自然や食、温暖な気候に恵まれ、また風光明媚な海と山に囲まれたまちで、美しい景観や温泉など魅力的な観光資源を多く有しております。この多様な恵みを生かしつつ、市民のみなさまや蒲郡市に関わるすべての方々と共に素晴らしい地域を築いております。

一方、近年の少子化や高齢化、人口減少、コロナ禍による地域のつながりの縮小など社会情勢は変化しており、また頻発する災害や気候変動、次なる新興感染症を見据えた新しい生活様式への対応など、社会は転換点に直面しています。

住み慣れたまちで健康で安心して過ごすことは誰もが願うところであり、人生100年時代を健やかに過ごせる社会の実現のためには、すべての人が心も体も健やかで自分らしく幸福に過ごせるまちづくりを進めることが重要です。

蒲郡市におきましては、「第五次蒲郡市総合計画」において、10年後の将来都市像を「豊かな自然 一人ひとりが輝き つながりあうまち～君が愛する蒲郡～」として推進をしており、また、市民の健康づくり推進計画として「健康がまごおり21第3次計画」を策定しております。これらの計画を踏まえ、この度「幸福」を軸として「健康」を高め、蒲郡市に関わるすべての人々がウェルビーイングを実感できるまち「イネーブリングシティ」という新たな都市像の実現を目指し「イネーブリングシティ基本計画」を策定してまいります。

令和7年3月



蒲郡市長 鈴木寿明

第1章 イネーブリングシティ基本計画の策定

1 背景と目的	4
2 計画のビジョン	6
3 イネーブリングシティ実現の戦略	8
4 計画の位置づけ	9
5 推進体制	10

第2章 蒲郡市民の現状と課題

1 現状	12
2 課題と対策の必要性	14

第3章 蒲郡市の地域特性

1 イネーブリングシティウォーク（ECW）の実施	20
2 イネーブリングシティウォークの結果	26
3 地理情報分析データの結果	32

第4章 計画が目指すもの

1 基本理念	36
2 将来像・まちのイメージ	36
3 基本方針	37

第5章 具体的推進施策

1 Happy/healthy 向上	40
2 Unhappy/unhealthy 低減	42
3 具体的施策	43

第6章 計画の実現に向けて

1 計画の推進と進行管理	48
2 今後の展開	49

< 資料編 >

・ 蒲郡市ウェルビーイング推進本部設置要綱	50
・ イネーブリングシティ推進施策共同研究機関・計画策定支援機関	52
・ 蒲郡市ウェルビーイング推進本部	52
・ 蒲郡市ウェルビーイング推進本部作業部会	53
・ イネーブリングシティウォーク	53
・ イネーブリングシティ推進に向けての関係者会議	54
・ 講演会、研修会	54
・ イベント参加	55
・ 関係データ	56

第1章

イネーブリングシティ基本計画の策定



第1章 イネープリングシティ基本計画の策定

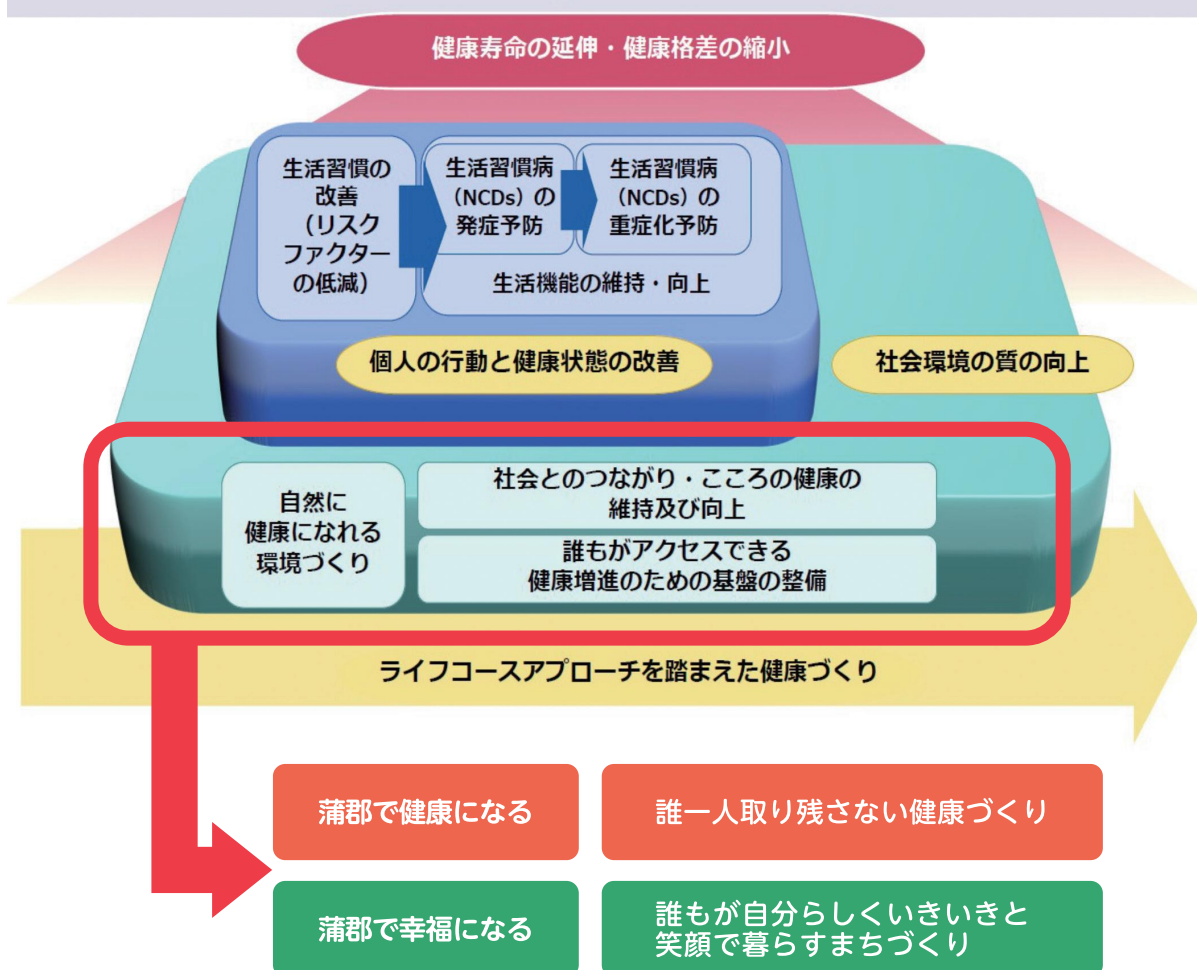
1 背景と目的

近年、少子化や高齢化、人口減少が進み、生産年齢人口の減少や働き方の変化、災害の激甚化や環境問題など社会情勢も変化しております。このような状況の中、住み慣れたまちで健やかで安心して過ごすことは誰もが願うことであり、そのためには心も体も健やかで、自分らしく幸福に暮らせるまちづくりが必要です。

蒲郡市では、市の将来展望や市政運営を明らかにするとともに、各分野におけるまちづくりを計画的かつ効率的に実行していく指針として、市の最上位計画である「第五次蒲郡市総合計画（令和3年度から令和12年度）」（以下、総合計画）を策定しております。また、総合計画に次ぐ上位計画である「健康が

健康日本21（第三次）の概念図

全ての国民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現のために、以下に示す方向性で健康づくりを進める



まごおり21第3次計画（令和7年度から令和18年度）」では、国の健康日本21（第三次）に基づき、個人の行動変容と健康状態の改善に加え、自然に健康になれる環境づくりに取り組むことで誰一人取り残さない健康づくりを推進し、最終目標である「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」を目指すものとしております。誰一人取り残さない健康づくりの推進のためには、個人の努力だけでは支えきれない健康格差や地域格差への対策も重要であり、個人へのアプローチに加えてまちを変える対策が重要であると考えます。

そこで、蒲郡市では、すべての人が幸福を実感しながら一人ひとりが自分らしく心も体も健康な状態（ウェルビーイング）で暮らし続けることを目的に、幸福と健康の両方向から進める新しい都市像である「イネーブリングシティ」の実現に取り組むことといたしました。

本計画書は、イネーブリングシティ（※1）の実現に向けた新しいまちづくりのための基本計画として策定し、取り組みの理念や方向性、および市民の幸福度を高め健康を推進する具体的な施策を示すものです。

また、本計画は施策の推進状況や社会情勢等により適宜見直すものとし、必要に応じて新たな施策の追加や修正等を行いながら進めてまいります。

＜用語の解説＞

※1 イネーブリングシティ

イネーブリングシティとは、横浜市立大学の武部貴則特別教授の調査チームが提唱するまちづくりの新概念で、市民一人ひとりのウェルビーイング（幸福と健康）や自己実現を最大化することを目指した都市像を表したものである。都市の中で人々が幸福や健康（ウェルビーイング）を同時に感じられる要素（イネーブリングファクター（EF）（※2））を実装することで、都市環境における社会的・環境的要素が市民の幸福感や健康状態に与える影響を最大限に生かし、ウェルビーイングを促進するイネーブリングファクターを都市全体に導入することを目指すものです。その手法の一つとして、「イネーブリングシティウォーク（Enabling City Walk）（ECW）」という市民参加型の調査活動があります。

<用語の解説>

※2 イネーブリングファクター（EF）

イネーブリングファクターとは、都市空間や公共施設、建造環境、サービスなどの形で、社会実装可能な幸福を高める要素です。このようなものにより人々が幸福を感じることで健康度も向上させるという、「ハピネスドリブン（Happiness-driven）」の考え方を採用したものです。自治体や関係団体等などが中心になって進める都市計画等に対し、市民一人ひとりの主観的幸福を中心にとらえる概念です。

2 計画のビジョン

本計画は「イネーブリングシティ」というまちづくりの新概念を基軸に、自然に健康になる環境づくりを進め、蒲郡市に関わるすべての人が幸福を実感しながら、自ずと健康的な行動がとれるよう、一人ひとりのウェルビーイングの実現に向けて進めてまいります。

計画が目指す姿としては、まちに人々が幸福を実感できるものや場所が増え、人がまちに出かけ、集い、ふれあい、つながることにより、活気があふれ、元気が高まる市民参加型の新しいまちです。このまちの実現により、市民の地域への想いや蒲郡市の地域資源等を最大限に生かされた、幸福度と健康度をさらに高めるイネーブリングシティが実現されます。

まずは、蒲郡市は車の利用が多く、まちを歩く人が少ない、歩数が少ないといった課題があることから、まちへの外出を増やし、歩行機会の増加と人々の交流を高める市民参加型の「自然に健康になるまち」を目指し、公共スペースを含むまちづくりを検討してまいります。

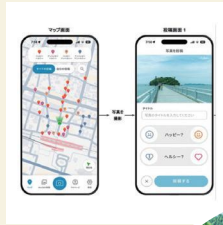
みんなでつくる「ハッピー＆ヘルシーなまち」がまごおり

イネーブリングシティ蒲郡



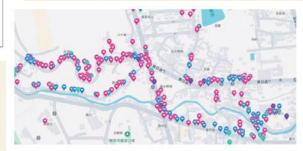
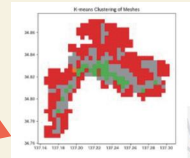
イネーブリングシティウォーク (ECW)による市民参加型調査

蒲郡のまちの「Happy」「healthy」(その逆も)を市民協力のもと収集。



ECWデータと地理情報データの分析

画像情報などによる取得された客観データや地図情報等から介入すべきエリアや解決すべき課題を推定。



自然に健康になるまち



まちのHappy/healthy要素を増やすための実装

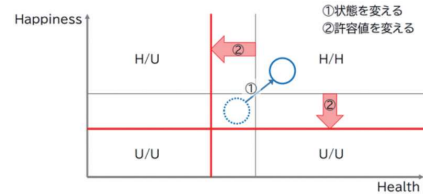
計画に基づいて「Happyを増やす」「Unhappyを減らす」介入の実施。



まちの改善策の計画立案

ウェルビーイング推進課及び部課横断作業部会、外部のステークホルダーとの共創による蒲郡のまち改善に向けた具体的計画立案。

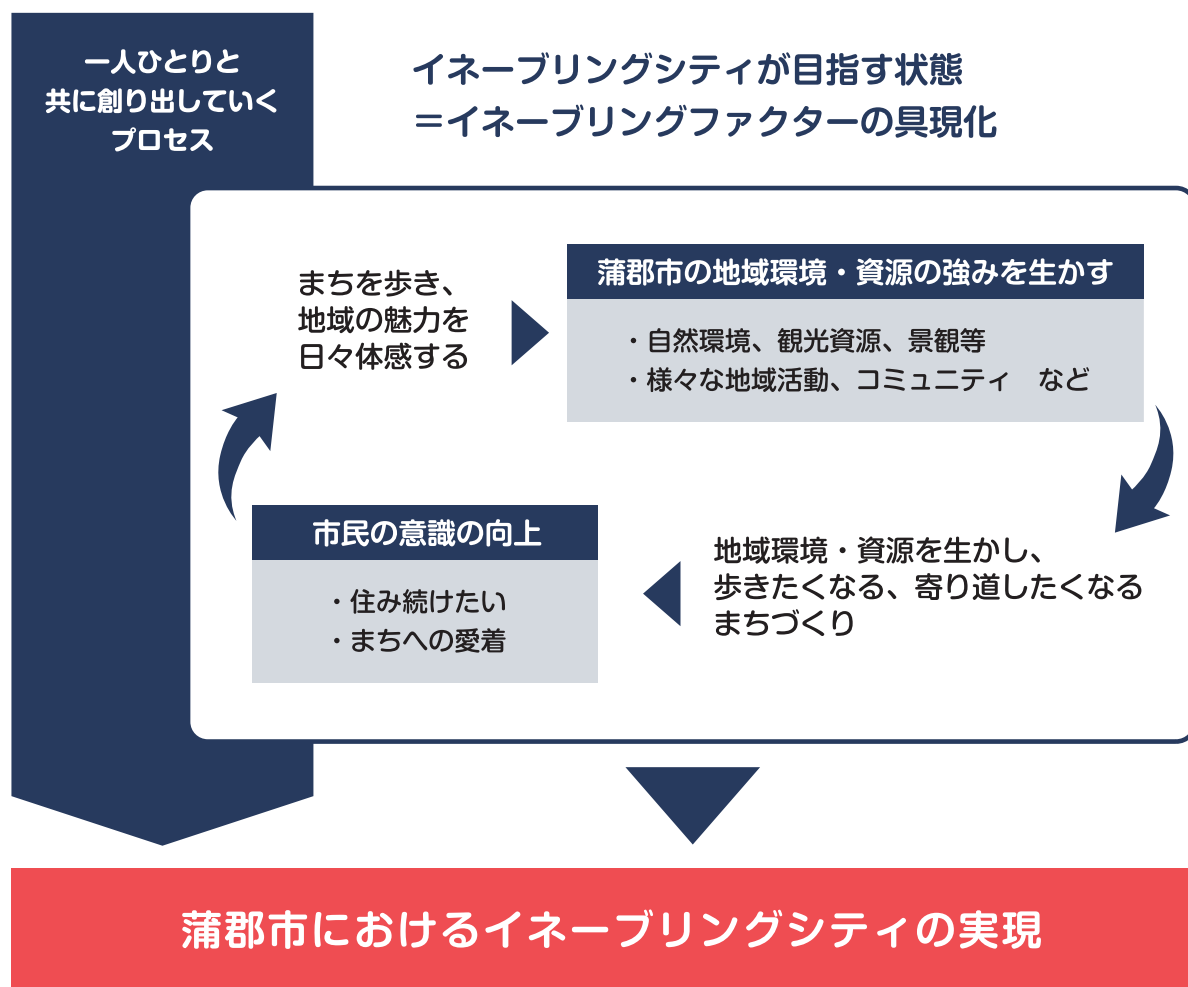
緑のH/Hを増やすアプローチ



3 イネーブリングシティ実現の戦略

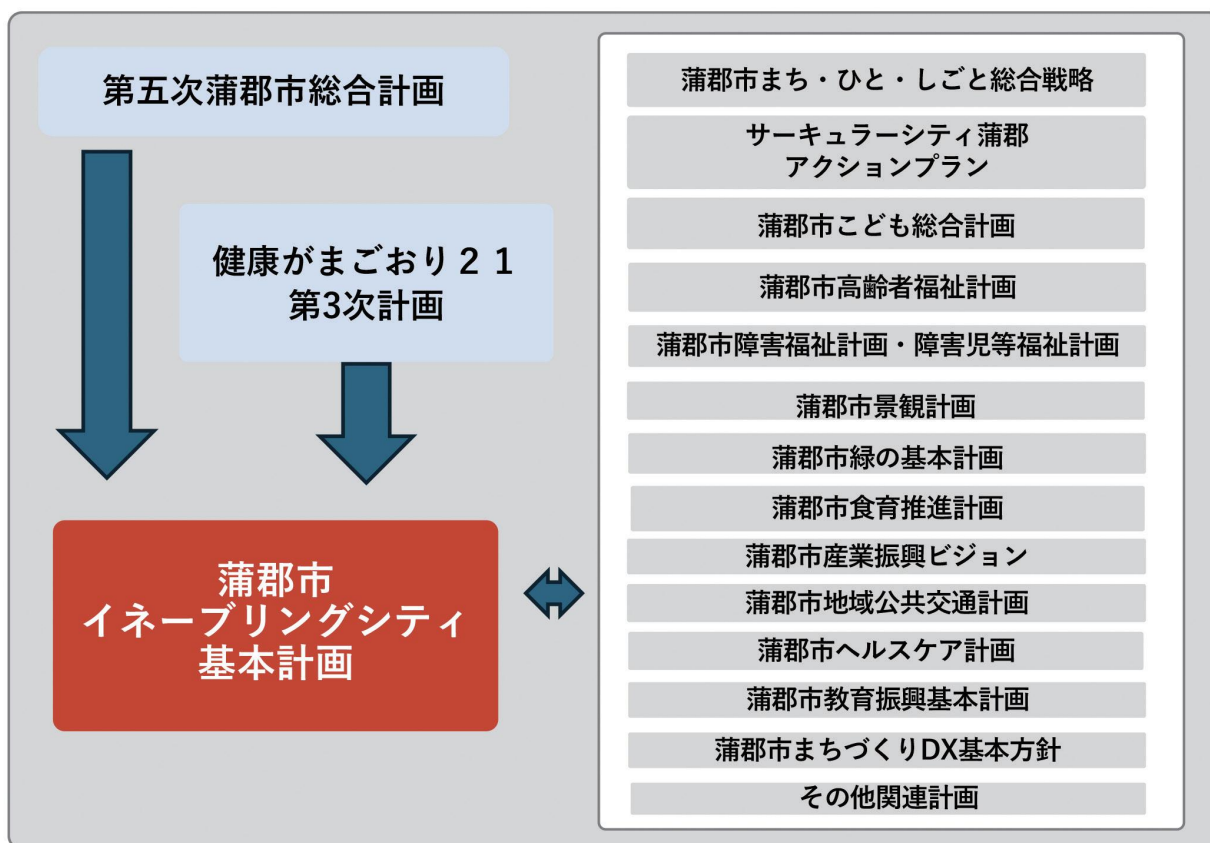
イネーブリングシティ実現のためには、幸福や健康を感じられる要素、すなわち「イネーブリングファクター（Enabling Factor: EF）」を見つけ、実装することが必要です。市内を歩き、自然景観をはじめとした地域環境や資源、地域活動など地域の魅力を把握した上で、まちの強みを増やし、一方で弱みを減らすことにより、まちがイネーブリングファクターで満たされるとともに、一人ひとりの自己実現につながる重要なアプローチ要素であるといえます。

歩きたくなるまち、そして共に活動したくなるというつながりの形成により、地域への愛着や暮らしの満足度が向上し、活気あるまちの実現のためイネーブリングシティの形成に取り組みます。



4 計画の位置付け

市の最上位計画である「第五次蒲郡市総合計画」および総合計画に次ぐ上位計画とする「健康がまごおり21第3次計画」に基づき、関連計画と連携して策定します。また、世界共通の目標である※SDGs（持続可能な開発目標）の考え方を踏まえて進めます。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



※ SDGs

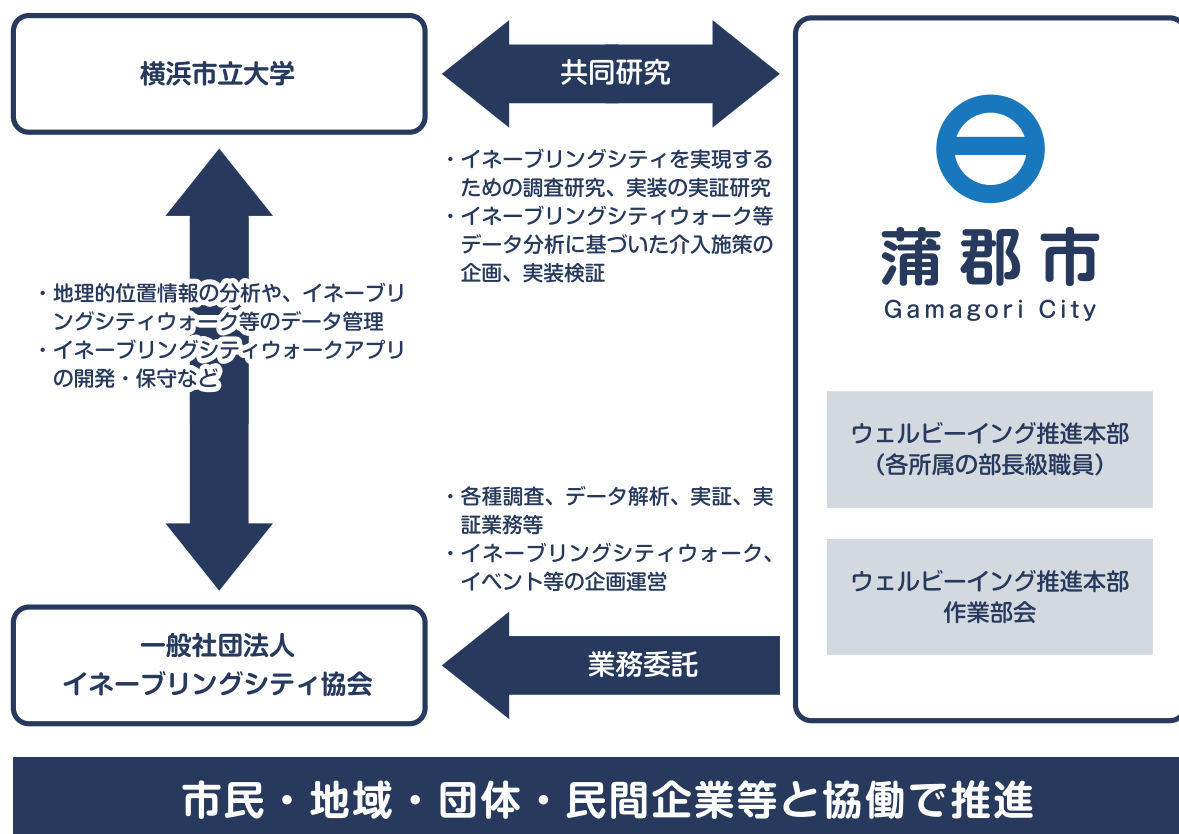
2015年9月に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」の略称。17の目標とそれらを達成するための169のターゲットで構成されている。先進国、開発途上国を問わず、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、世界全体の経済、社会及び環境の三側面における持続可能な開発を統合的取組として推進する目標。

5 推進体制

イネーブリングシティ形成の推進については、横浜市立大学との共同研究、および一般社団法人イネーブリングシティ協会との業務委託により開始するものとし、市役所内においては、市長・副市長直轄組織であるウェルビーイング推進課を中心に、庁内各部各課の施策や計画にウェルビーイングの視点を取り入れ全庁的に推進します。

また、ウェルビーイング推進に関する施策を総合的かつ一体的に推進するため、「蒲郡市ウェルビーイング推進本部（以下、推進本部）」を設置し、ウェルビーイング推進に係る取り組みの方針の共有、および運用に関すること、ウェルビーイング推進に係る各部局の取り組みに関する協議及び総合調整に関すること、その他ウェルビーイング推進のために必要な事項に関することについて検討します。加えて具体的施策の推進に必要な検討については、「推進本部作業部会」を開催し、検討および推進するものとします。

さらに、蒲郡市のイネーブリングシティ実現のための取り組みについては、必要に応じ、本取り組みに賛同する様々な関係機関や市民、地域団体、企業等と協働で推進するものとします。





第 2 章

蒲郡市民の現状と課題

第2章 蒲郡市民の現状と課題

1 現状

(1) 人口減少、少子化、高齢化の進行

蒲郡市の人口は、昭和60年をピークに緩やかに減少しており、令和5年には78,199人、令和17年には71,955人まで減少する推定となっております。また、出生数は令和5年は431人で年々減少しており、出生率では国や県と比べて低くなっています。一方で死亡に関しては、令和4年の死亡者数は1,066人と、令和4年の出生数423人を大きく上回っており、人口の自然減の状況が続いています。さらに高齢化率については年々高くなっており、国および県と比較しても高く、地区別では、西浦、三谷、形原の順に高く、市の中心部から離れるにつれて高い傾向がみられます。なお、高齢者単独世帯および高齢者世帯の割合については、西浦地区が高くなっております。

(2) 健康・生活習慣に関する現状

蒲郡市の平均寿命と健康寿命については、令和元年の男性の平均寿命は81.78歳、健康寿命は80.62歳、女性の平均寿命は87.63歳、健康寿命は85.06歳です。男性は平均寿命、健康寿命ともに、年々高くなっていますが、女性の平均寿命は令和2年は令和元年より0.11歳低くなっています。また、健康寿命と平均寿命の差は、男性は1.16歳、女性は2.57歳です。次に、国民健康保険被保険者の特定健診の受診率を地区別でみると、小江・府相や東西北、塩津の順に高く、形原、西浦は低い状況であり、市の中心部や山間部で高く西側の地区で低い傾向があります。国民健康保険被保険者の特定健診の結果では、メタボリックシンドロームや高血糖、高血圧該当者が多く、中学1年生で実施しているヘモグロビンA1c検査（血液検査）結果においては約35%の生徒が基準値（5.6%）を超える結果となっております。また、特定健診の問診票から生活習慣の状況を見てみると、運動習慣がある人や身体活動をしている割合および歩行速度は男女とも県平均より低く、食事では、朝食を毎日取る割合は30代が最も低く、次に20代、高校生と続き、摂取の割合が最も高いのは70代でした。小・中学生についてはどの学年も1割程度欠食があります。さらに、間食をとる割合は、国や県と比較して割合が高い傾向にあります。

(3) 幸福に関する現状（市民意識調査より）

令和6年度に実施した市民意識調査の結果では、「ウェルビーイング」という言葉の認識度については、約7割の方が「知らない」と答えており、またウェルビーイング推進への取り組みについての必要性では、「必要である」「効果を感じる」と前向きな回答は59.5%であった一方で、「興味がない、わからない」が38.7%とまだまだウェルビーイングへの意識は薄い傾向があります。

自己（個人）の幸福度については、強度の違いはあるが「幸せ」と答えた割合は87%であり、幸福を感じる状態として最も多かったのは「家族・人間関係が良好であること（383件）」が最も多く、次に「健康を実感できる（360件）」、「不安や悩みがない（262件）」と続き、「まちの美しさ（11件）」や「生活の利便性（36件）」については少ない状況でした。幸福を感じる状態として、「まちの美しさ」という回答は少なかったものの、一方でウェルビーイングなまちづくりの効果的な取り組みについての質問で最も多かった回答は「自然など美しいまちづくり（356件）」、次に「道路、建物の整備（276件）」、「概念や理念などの情報発信（238件）」と続いており、ウェルビーイングの達成のために、まちづくりへの期待は大きいものであると推測されます。さらに、健康感と幸福感との関係性についての質問として、「健康を判断する要素として重視するもの」の質問で最も多かった回答は「病気がないこと（514件）」、次に「美味しく飲食ができる（368件）」であり、「幸せを感じる（116件）」は少ない傾向にありました。健康を判断する条件として、幸福の概念は現状では優先度が高くないことが明らかになりました。

（※「1.現状」の文章内の各データについては資料編（P.56～69）に掲載）

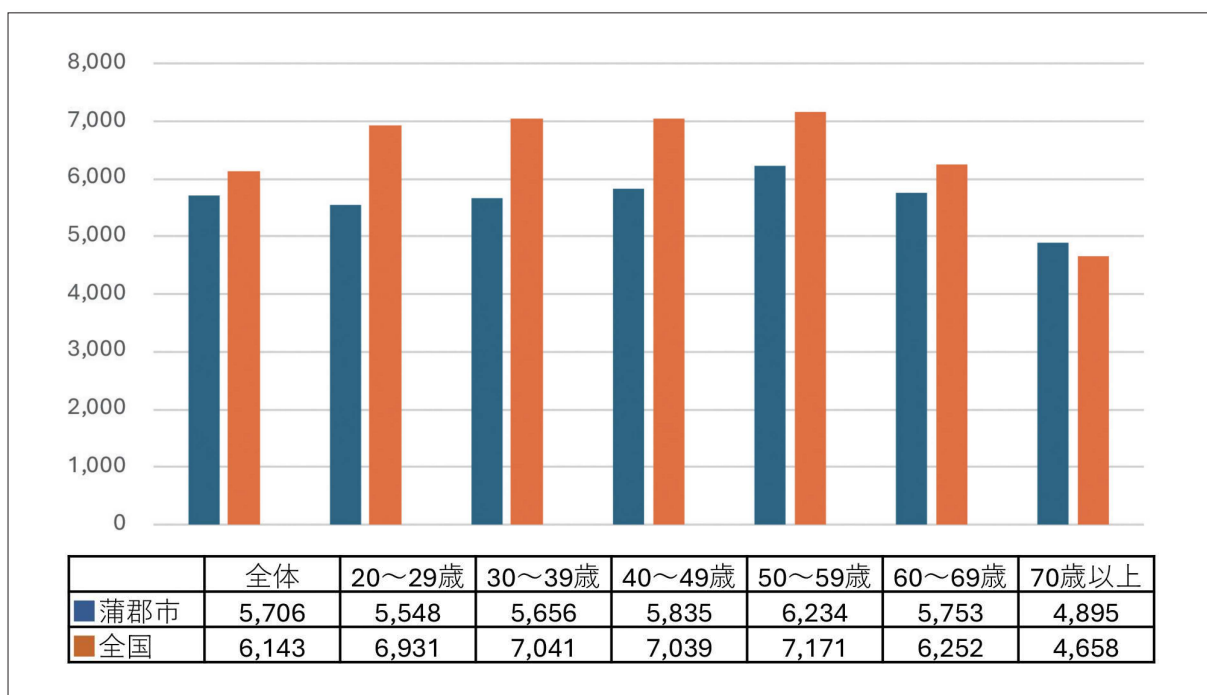
2 課題と対策の必要性

イネーブリングシティ形成に向けて課題を整理し、対策の必要性を挙げました。

(1) 一日あたりの歩数の現状と課題

厚生労働省の「健康日本 21（第三次）推進のための説明資料」によると、歩数は身体の移動を伴うような比較的活発な「身体活動の客観的な指標」であり、「歩数の増加」は、健康寿命延伸や社会生活機能の維持・増進につながる直接的かつ効果的な方策としています。また、これまでの研究において、「歩数と疾病罹患率あるいは死亡率との間に明確な負の関係があることが確認されている」とされ、特に「日常生活における歩数の増加」は「生活活動」を反映しているとし、健康日本 21（第三次）においても「日常生活における歩数増加」を健康課題改善のための目標項目としています。

蒲郡市民の1日あたりの歩数（※）の平均値を全国平均（厚生労働省 令和4年国民健康・栄養調査結果の概要を参照）と比較したところ図1のとおりです。

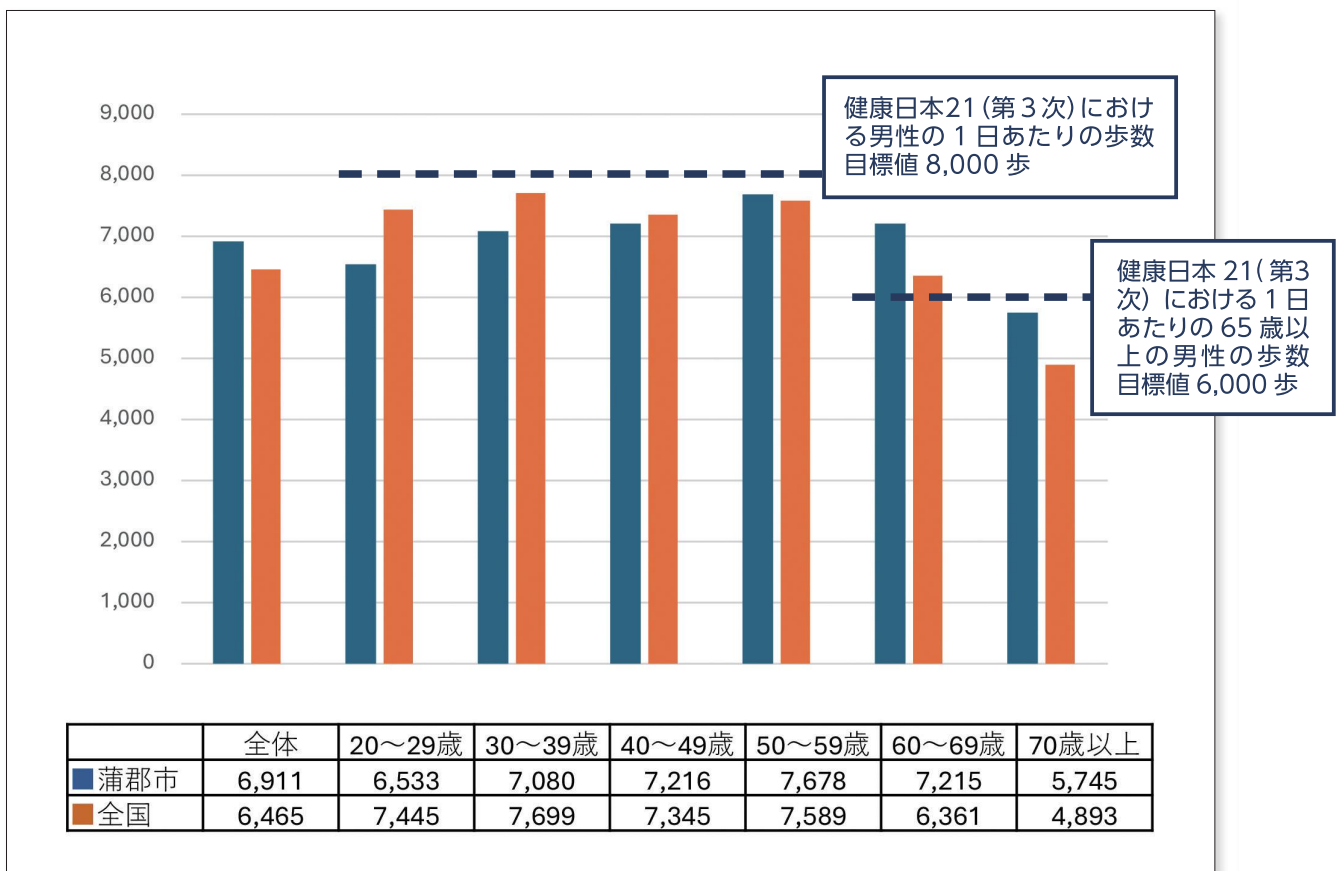


（図1） 1日あたりの歩数平均値の国と蒲郡市の比較

※蒲郡市民の歩数は『蒲郡市版ポイント活用プラットフォーム導入事業 月例報告会議（2024年5月度）』を使用しているため、令和4年国民健康・栄養調査と同じ条件での歩数カウントではありません。

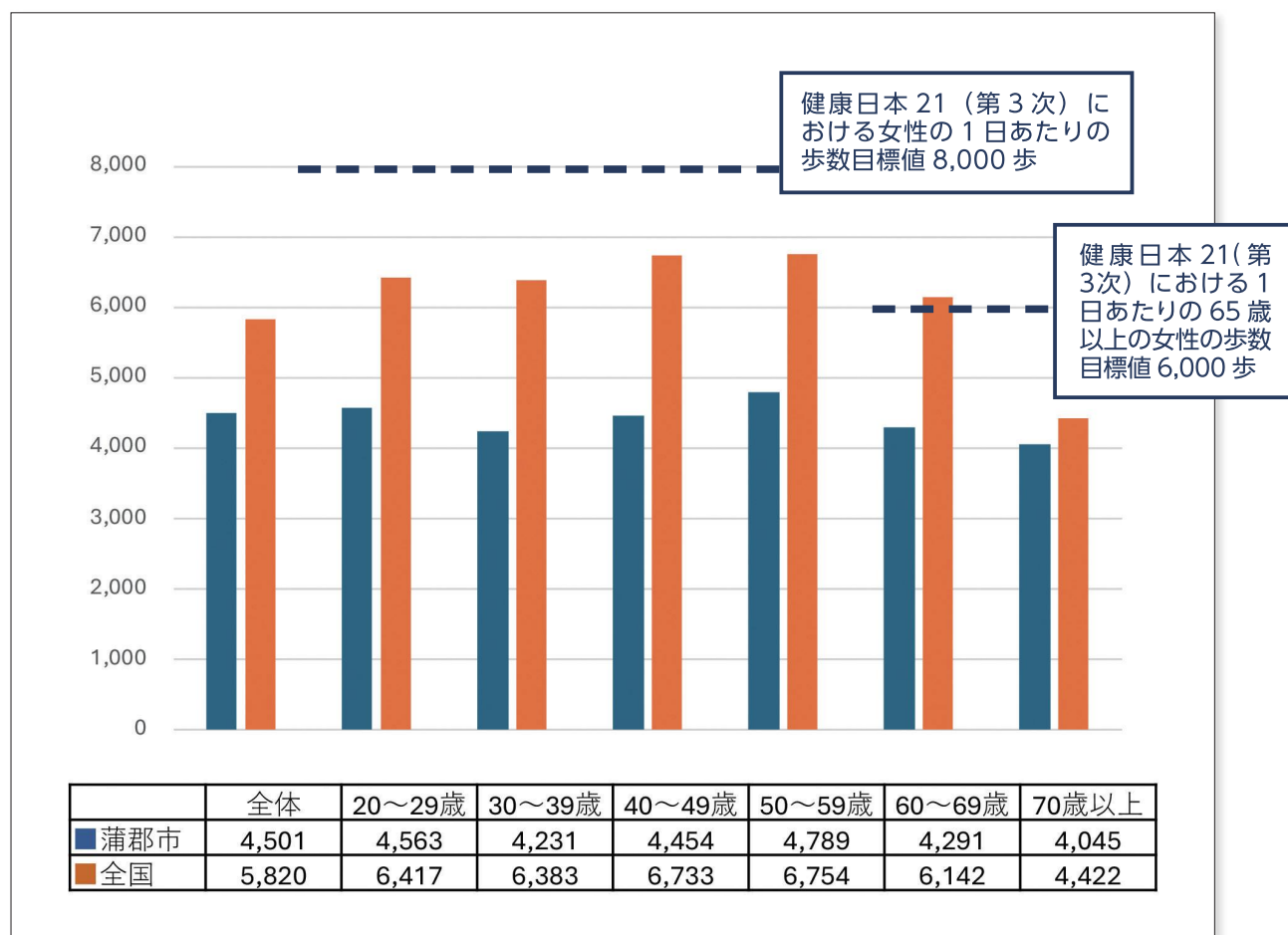
図1のとおり、蒲郡市民の1日平均歩数は、全国平均に比べて437歩ほど少ない可能性が示唆されました。年代別に見ていくと、各年代とも全国平均を下回るものではありませんでしたが、70歳以上においては、全国平均をやや上回る結果となりました。ただし、蒲郡市のデータにおいては70から79歳のデータを活用している一方で、厚生労働省の調査では70歳以上という対象者としており、どの年代を上限としているのかが明確でないため、比較については注意が必要です。

次に、男性の年代別の歩数について全国と比較（図2）してみたところ、全体では、全国平均を446歩上回っていますが、年代別の内訳を見てみると、20代から40代までは、全国平均をやや下回っており、50代から70歳以上の年代で全国平均を上回っています。特に60歳以上では、全国平均を大きく上回っており、蒲郡市の男性高齢者が1日あたりの歩数が多い傾向があります。



（図2） 1日あたりの歩数（男性） 平均値の全国比較

また、女性の年代別歩数を全国平均と比較（図 3）してみると、全体では、全国平均から 1,319 歩少なく、年代別にみると 70 歳以上で全国平均との差が、377 歩とやや下回る程度であるものの、それ以外の年代において全国平均よりも 2,000 歩程度少ない状況です。



（図 3） 1 日あたりの歩数（女性） 平均値の全国比較

このように、蒲郡市民の 1 日あたりの歩数は全国平均を下回っており、男性は全国平均よりも多いものの、女性についてはどの年齢も全国平均を大きく下回っている可能性があります。

また、健康日本 21（第三次）で定められている一日あたりの歩数目標値は、20 歳から 64 歳の男女は各 8,000 歩、65 歳以上の男女は各 6,000 歩としています。蒲郡市民の歩数についてはこの目標値に到達していない状況であることから、市民の歩数向上は今後の課題であると考えます。

(2) 社会課題

近年、蒲郡市においても高齢化や少子化、人口減少が進行しており、また、市内の公共交通機関の再構築や商業施設の縮小から、徒歩での外出の頻度が減少している現状があります。人口減少や人々の外出頻度の減少により、まちの活性化や社会的、人的交流の縮小が危惧される状況があります。

令和6年度の市民意識調査において、蒲郡市の「住みやすさ」や「市への愛着」についての質問に対する回答をみると、「これからも蒲郡市に住み続けたいか」という質問に対して、「ずっと住み続けたい」と「当分の間は住み続けたい」と答えた人は89.8%に達していました。また一方で、「住みやすさ」の質問については「住みやすい」「どちらかというに住みやすい」と答えた人は78.7%であり、愛着に関しては「とても愛着がある」「やや愛着がある」と答えた人は76.5%となっています。「これからも住み続けたい」という高い割合と比較して、「住みやすさ」や地域への「愛着」の割合は低くなっています。

まちの賑わいや人との交流の増加は、楽しさや安心感、利便性など市民の幸福度を高めることにつながり、また自分自身が住む地域にさらに愛着をもち住みやすいまちへ変えていくこと、さらには移住定住につなげていくことが課題であると考えます。

今後はこのような社会環境の変化や市民のニーズの状況から、まちに出かけなくなる様々な仕掛けや施策の推進とイネーブリングシティの形成が必要と考えます。

(3) ウェルビーイングに関する課題

令和6年度の市民意識調査において、「ウェルビーイング」という言葉の認知度については高くない状況でした。また、個人のウェルビーイングを達成する条件についての質問では、「家族関係や人間関係」「健康」「悩みがない」と回答した人が多く、「まちの美しさ」と回答した人は少ない状況でした。一方で、ウェルビーイングな「まちづくり」に必要なことについては、「まちの美しさ」や「道路、建物の整備」の回答が多く、ウェルビーイングの実現のためには、まちづくりへの期待は大きいものであると推測されます。

また健康感と幸福感との関係性については、現状では健康の条件に幸福の概念の優先度は必ずしも高くない結果でした。しかしながら、市民の幸福度（Happiness）を高め、幸福を感じながら、自ずと健康になるまちの実現は重要なことであり、今後はウェルビーイングを達成する要素の検討と充実が課題と考えます。

(4) 健康課題

蒲郡市では、生活習慣病の重症化や要介護認定の増加、女性のやせや働く世代のメタボリックシンドロームの増加。また、こどもの運動習慣の減少、肥満の増加、および朝食欠食の増加などの課題もあります。

また、地域別の特定健診受診率や特定健診の結果などの健康データをみると地区による差がみられ、居住環境と健康度に影響が認められます。性別、年齢、居住環境や生活環境の違いによる健康格差を縮小するためには、蒲郡市に関わるすべての人が、自ずと健康になれる社会環境づくりと誰一人取り残さない健康づくりの推進が重要であると考えます。



第3章

蒲郡市の地域特性

第3章 蒲郡市の地域特性

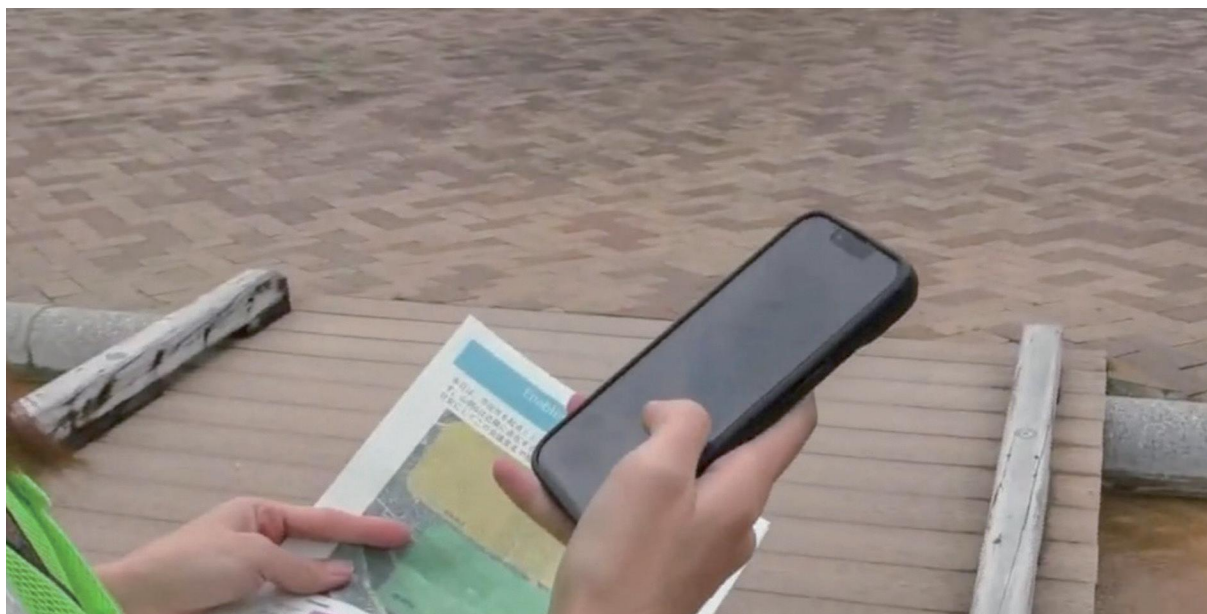
1 イネーブリングシティウォーク（ECW）の実施

（1）目的

イネーブリングシティウォーク（※ 3）は、市民や関係者の協力・連携のもと、市内を歩きながら、歩行者の感情を誘発する要因になる「要素」を収集し、市内にある「Happy/ healthy 要素」、「Unhappy/unhealthy 要素」に関する市民の声を集め、分析することで、まちづくりに必要な「増やすべきモノ・コト」や、「減らすべきモノ・コト」を見つけ出し、まちづくりに生かしていきます。

（2）回数、参加人数

令和7年2月時点で、5回のイネーブリングシティウォークを実施しており、延べ247人の参加者がありました。今後は調査範囲を広げ、蒲郡市内のイネーブリングファクターのデータ収集を目指していきます。



イネーブリングシティウォークでのスマートフォン アプリによる投稿の様子

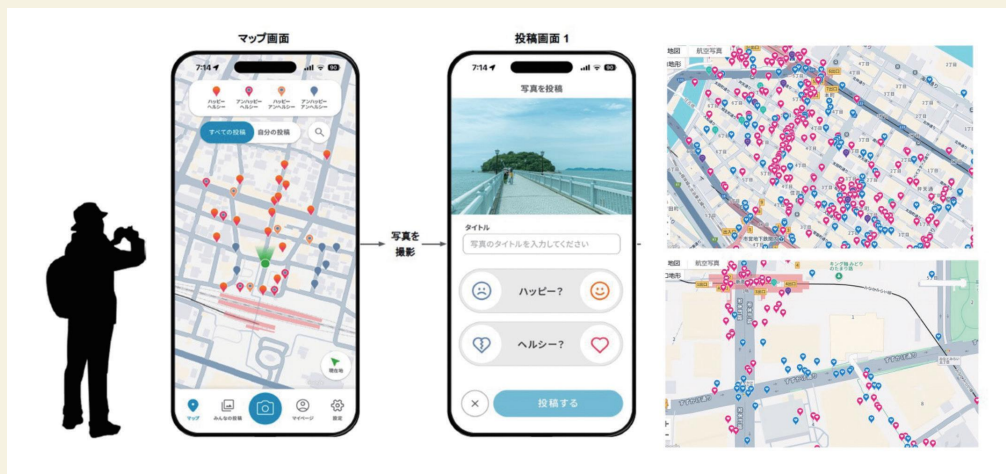
<用語の解説>

※3 イネーブリングシティウォーク

イネーブリングシティウォーク（Enabling City Walk）とは、都市環境においてウェルビーイング（幸福と健康）を向上させる要素、すなわち「イネーブリングファクター（EF）」を市民と共に探索する調査活動です。

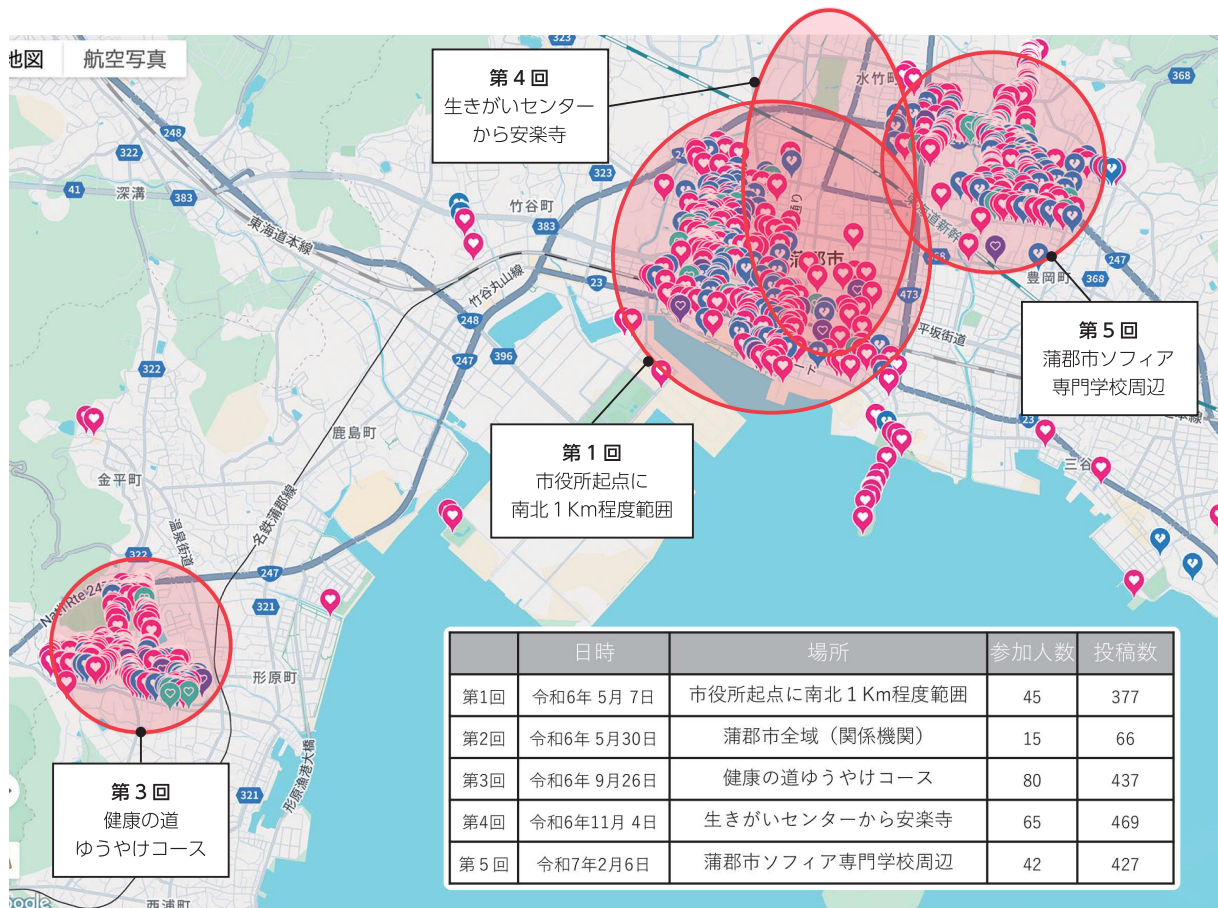
この取り組みは、まちづくりにおけるウェルビーイングの向上を目的とし、実際のまちを歩きながら各自が気づいた場所やものなどを写真撮影し、コメントを付してスマートフォンで投稿するかたちで行われます。投稿は位置情報とともに、まちの要素に対する主観的な幸福度（Happy/Unhappy）や主観的な健康度（healthy/unhealthy）などを含んでおり、これを基に都市環境がどのように人々のウェルビーイングに影響を与えるかを分析可能とします。イネーブリングシティウォークで用いられるのがイネーブリングシティウォークアプリであり、本アプリはスマートフォンを利用して市民が自ら街を歩き、ウェルビーイングに寄与する都市要素（イネーブリングファクター：EF）を記録・共有するアプリです。GPSを活用してリアルタイムでデータを収集し、市民の「幸福」「健康」の主観データを視覚化します。

イネーブリングシティウォーク（ECW）アプリの概要



(3) 結果・分析

イネーブリングシティウォークの参加者がアプリに投稿した内容を集計し、まちの「Happy、Unhappy、healthy、unhealthy」要素について分析をしました。



(図 4) 蒲郡市内でのイネーブリングシティウォークの実施概要

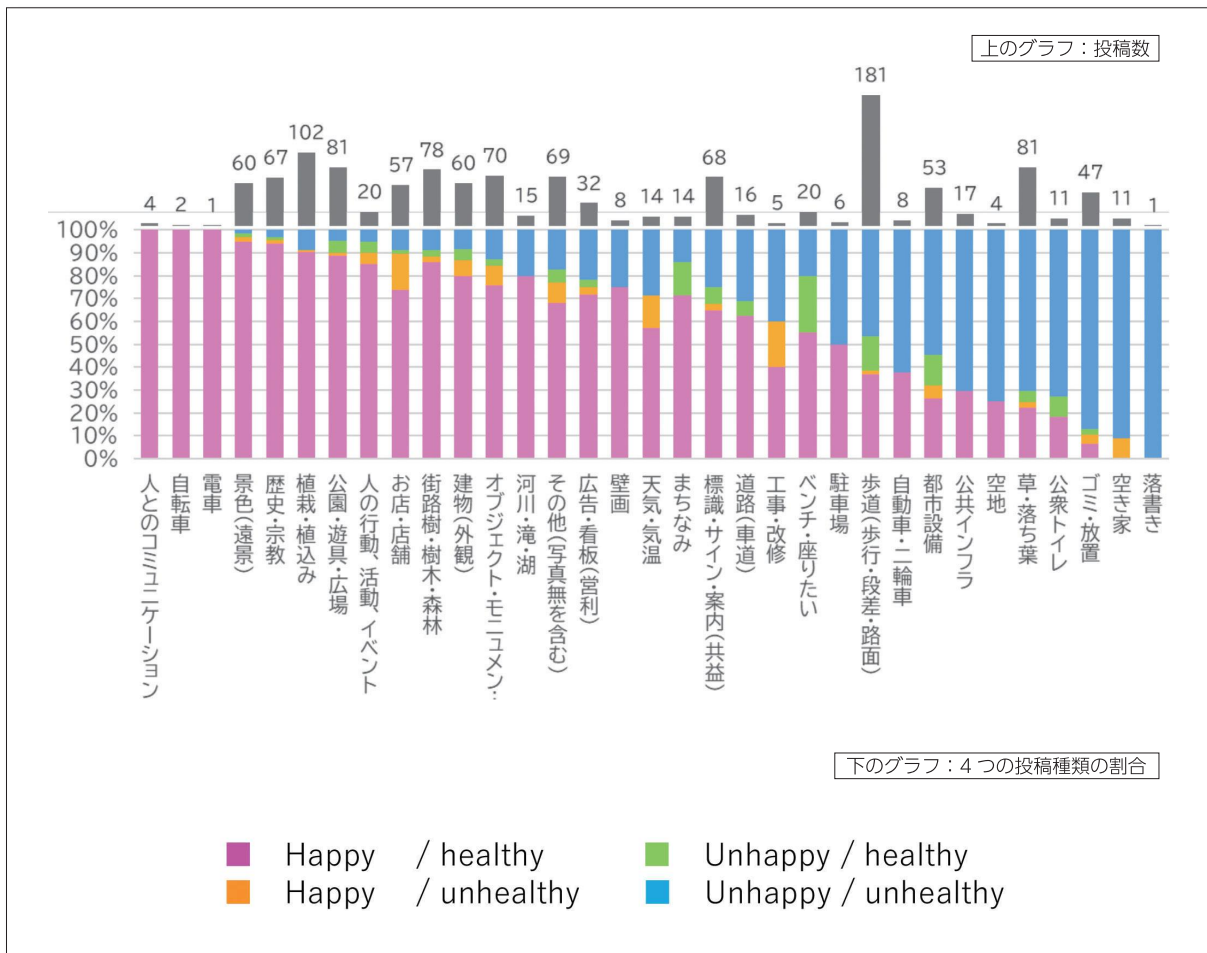
第1回目は、蒲郡市職員が中心となり市役所から南北に分かれ1時間程度のウォークが可能なエリアでの調査を行いました。第2回目は、横浜市立大学およびイネーブリングシティ協会の関係者で市内全域を回り、第3回目は、形原町の健康の道「ゆうやけコース」を市民や地元企業、関係機関など幅広い参加者で実施、第4回目は、健康づくりいっしょにやろまい会（健康がまごおり21計画推進グループ）が定期的の実施しているウォーキングの会と協働で実施しました。第5回目は、蒲郡市ソフィア看護専門学校の授業の一環として2年生の学生に参加してもらい、看護学校から東西南北の4つの方向に分かれ実施しました。

投稿の結果が、地図上にマークされ写真と投稿内容が集約されます。

第1回から第4回のイネーブリングシティウォークの参加者がスマートフォンから投稿した内容を集計し、まちの Happy & healthy 要素について分析をしました（図5）。

投稿数をみると、「歩道（歩行・段差・路面）」に関する投稿が181件と最も多く、次いで「植栽・植え込み」、「公園・遊具・広場」の順に多い結果となりました。

ピンク色が Happy/healthy、黄色が Happy/unhealthy、緑色が Unhappy/healthy、青色が Unhappy/unhealthy と4つのカテゴリーに分類しており、それぞれの投稿要素により、どの区分の投稿が多いのかを分類し分析しました。最も多い投稿の「歩道（歩行・段差・路面）」で内訳をみると、Happy/healthy（ピンク色）が比較的少ない結果がみられます。



（図5） カテゴリー別 Happy・healthy の投稿割合および投稿数（Happy の多い順）

カテゴリ別の Happy/healthy/Unhappy/unhealthy 投稿の例

① Happy/healthy の投稿が多かったカテゴリでの Unhappy/unhealthy 投稿の例

植栽・植込み

■ Happy / healthy
綺麗にしてくれている



■ Unhappy/unhealthy
花壇なのに…



植栽・植込み

■ Happy / healthy
自然に囲まれた公園



■ Unhappy/unhealthy
汚れ



オブジェ・モニュメント・装飾

■ Happy / healthy
踏み台の優しさ



■ Unhappy/unhealthy
汚いなー



お店・店舗

■ Happy / healthy
地域のつながりを感じる喫茶店



■ Unhappy/unhealthy
さみしい感じ



② Unhappy/unhealthy の投稿が多かったカテゴリでの Happy/healthy 投稿の例

歩道

■ Unhappy/unhealthy
つまづいた！車もすぐ横を通って危ない！



■ Happy / healthy
こういう歩道いいよね！



都市設備

■ Unhappy/unhealthy
むき出しなマンホール



■ Happy / healthy
ご当地マンホール



公共インフラ

■ Unhappy/unhealthy
何か使えたらいいな



■ Happy / healthy
雰囲気のある高架下



草・落ち葉

■ Unhappy/unhealthy
草



■ Happy / healthy
自然が多い。草花ラリーできるかも



③同じ対象物で Happy/healthy、Happy/unhealthy、Unhappy/healthy、Unhappy/unhealthy の4つのカテゴリ分かれる例

Happy / unhealthy

かわいいベンチと所々にある灰皿



Happy / healthy

ベンチのある公園



Unhappy / healthy

このベンチは座って良いの？



Unhappy/unhealthy

もっと綺麗だったら

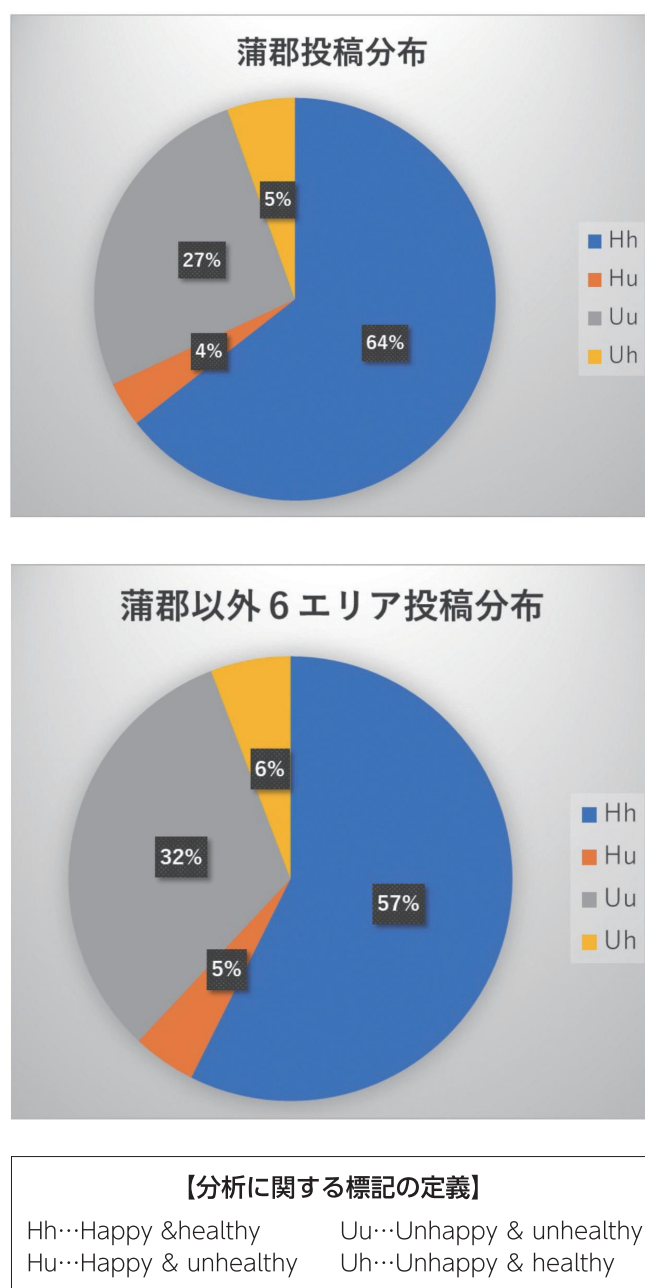


公園のベンチが濡れて座れない



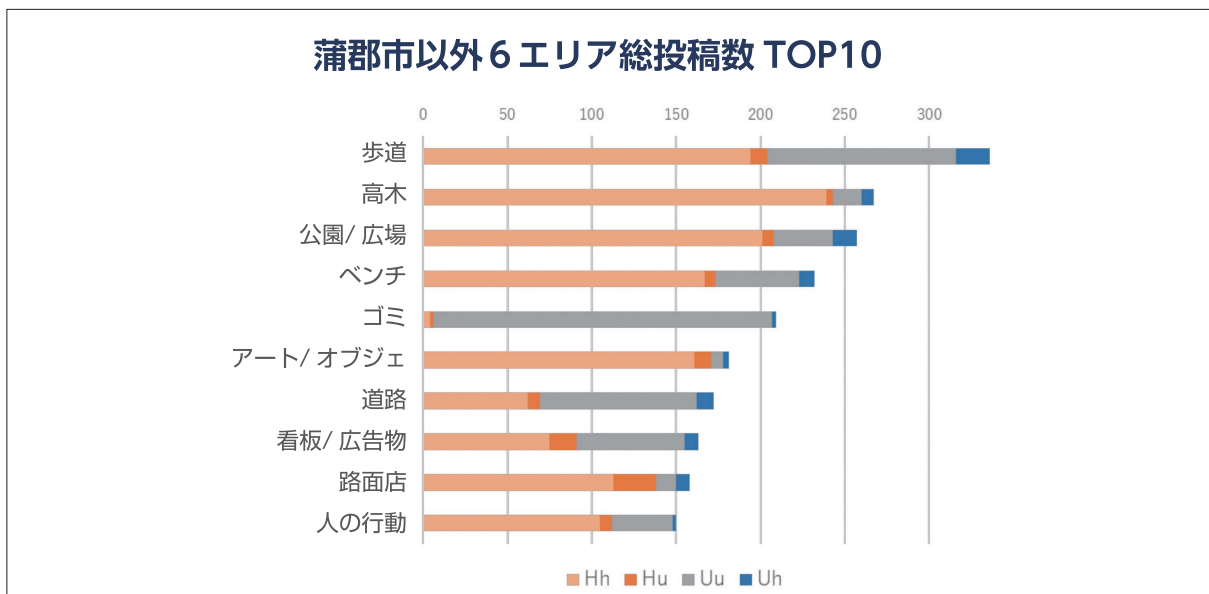
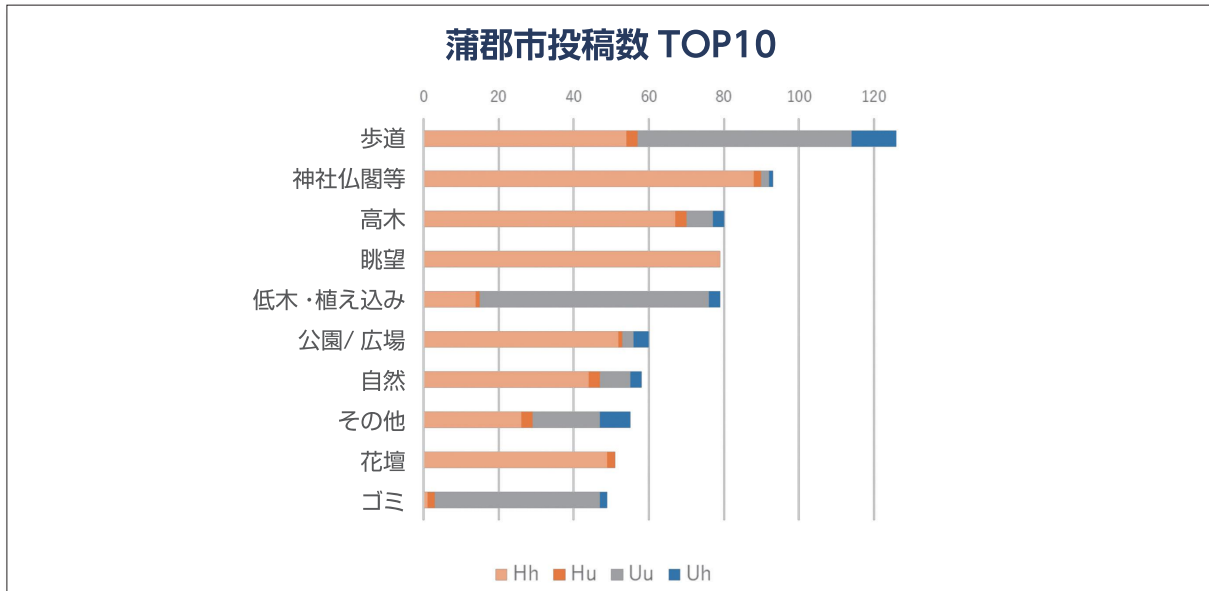
2 イネーブリングシティウォークの結果

イネーブリングシティウォークを通じて収集されたデータに基づき参加者が、Happy/healthy、Unhappy/unhealthy を感じるエリア、スポット、まちの構成物を分析しました。Happy と healthy の投稿分布を蒲郡市と蒲郡市以外の6エリア（みなとみらい（横浜市）、新札幌、仙台市青葉通り、札幌市白石、大阪府西淀川区（緑陰道路）、関内（横浜市））の計の統合値で比較したところ、蒲郡市は Happy & healthy の投稿割合が高いことが示唆されました。



（図6）蒲郡市及び蒲郡市以外のエリアの投稿分布

まち歩きの中で人の感情を誘発する要因は、イネーブリングシティウォークにおける投稿数の量に反映されます。蒲郡市と蒲郡市以外6エリア（みなとみらい（横浜市）、新札幌、仙台市青葉通り、札幌市白石、大阪府西淀川区（緑陰道路）、関内（横浜市））の投稿数をまとめ、それぞれ TOP10 をグラフにしました。

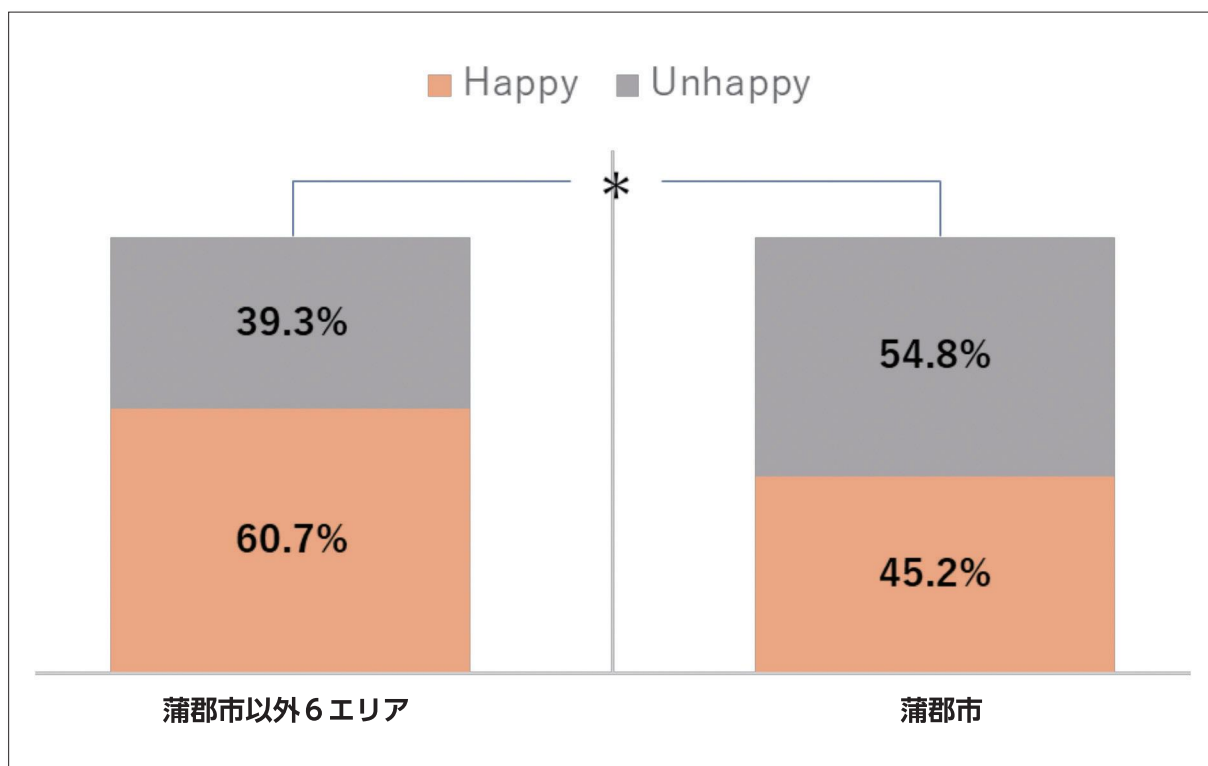


（図7）蒲郡市及び蒲郡市以外6のエリアの投稿数ランキング

蒲郡市と蒲郡市以外の6エリア双方に共通する項目は、「歩道」「高木」「公園/広場」「ゴミ」で、一方、蒲郡市だけにランキングされた項目は「神社仏閣等」「眺望」「低木・植え込み」「自然」「その他」「花壇」でした。

逆に蒲郡市以外の6エリアのみにランキングしたのは「ベンチ」「アート/オブジェ」「道路」「看板/広告物」「路面店」「人の行動」でした。

「歩道」に関しては、蒲郡市及び蒲郡市以外の6エリアの双方で投稿数が1位でしたが、両エリア間での「歩道」のHappy投稿割合に差があるかについてカイ2乗検定（※4）を行ったところ、蒲郡市は歩道に関するHappy投稿割合が有意に少なく、Unhappy投稿割合が有意に多いという結果となっています



（図8）歩道に関するHappy投稿割合の比較



歩道に関する投稿（例）
Happy



歩道に関する投稿（例）
Unhappy

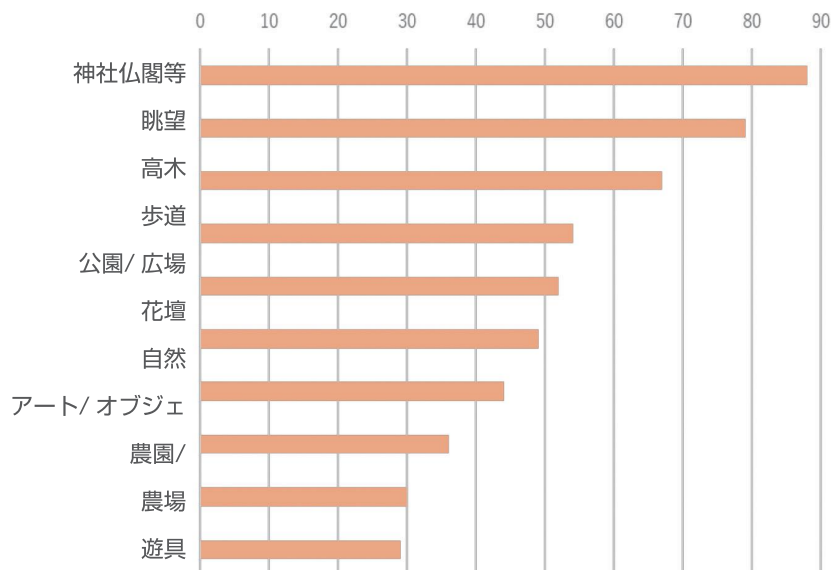
<用語の解説>

※4 カイ2乗検定

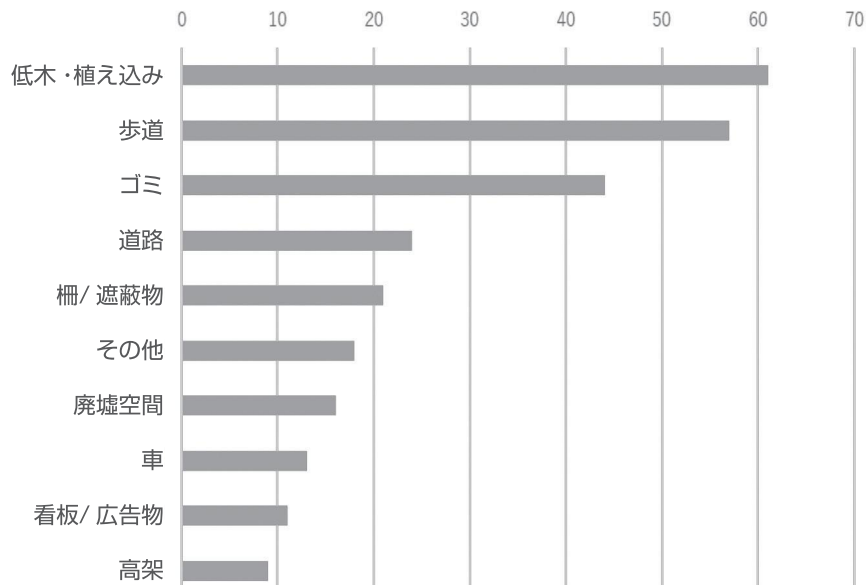
カイ2乗検定とは、集計結果に出た差が偶然なのかそうでないのかを確認する方法です。

蒲郡市の Happy/healthy 投稿と、Unhappy/unhealthy 投稿のそれぞれの TOP10 をみたところ、Happy/healthy 投稿数のランキングには、全投稿数の上位ランキングと共通する項目が多く、一方で、全投稿数にはランクインしなかった「アート / オブジェ」「農園 / 農場」「遊具」がランクインする結果となりました。これは Happy/healthy 投稿数の割合が非常に高かったことを示しています。

蒲郡市 Happy/healthy 投稿数 TOP10



蒲郡市 Unhappy/unhealthy 投稿数 TOP10



(図9) Happy/healthy 投稿と、Unhappy/unhealthy 投稿数ランキング

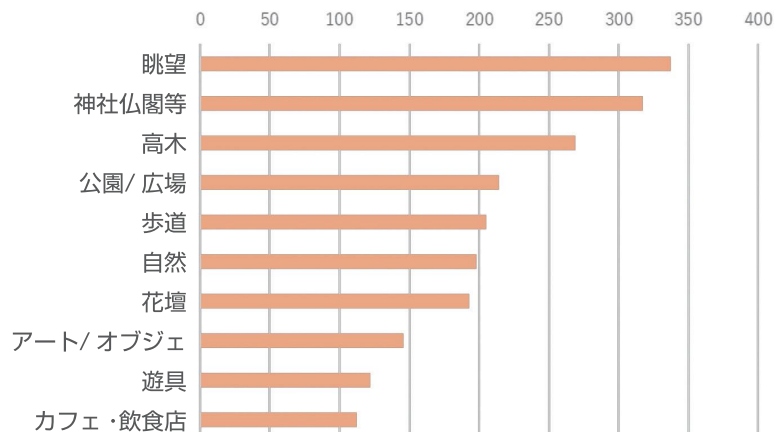
一方、Unhappy/unhealthy ランキングには、全投稿ランキングには入らなかった「道路」「柵 / 遮蔽物」「廃墟空間」「車」「看板 / 広告物」「高架」がランクインする結果となっています。また、「その他」投稿の Unhappy/unhealthy 評価がされている対象物としては、太陽光パネルや電線、電柱、鉄塔などが代表的なものでした。これらの都市生活を支えているインフラに着目して Happy/healthy に転換できるような方策を考案することにより、新たなまちの価値創出につながる可能性があると言えます。

Unhappy/unhealthy の「その他」投稿の例

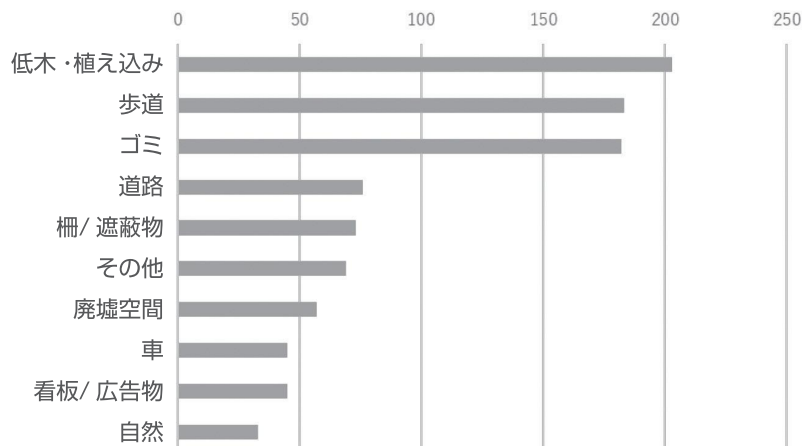


投稿にはその感情を感じる強度を示すため、数値（-3 から + 3）を入力することができます。その強度を加味して、対象物分類ごとの Happy スコアと healthy スコアをそれぞれ算出した上で、Happy スコアと healthy スコアの合計点をイネーブリングファクター（EF）スコアとして、TOP10 とワースト 10 を見てみると、TOP10 では、「眺望」と「神社仏閣」、「歩道」と「公園 / 広場」、「花壇」と「自然」の順位が前後で入れ替わったものの大きな変化は生じませんでした。また、投稿数ランキングではランクインしなかった「カフェ・飲食店」が 10 位にランキングする結果となりました。ワースト 10 では、投稿数ランキングと 1 位から 9 位までは同じランキングとなりましたが、10 位のみ「自然」がランクインする結果となりました。「自然」が入ってきた理由としては、ウォーキング当日の気温上昇（猛暑）の影響で気候などに対する負の感情が強く出た可能性があります。

蒲郡市イネーブリングファクタースコア TOP10



蒲郡市イネーブリングファクタースコア ワースト 10

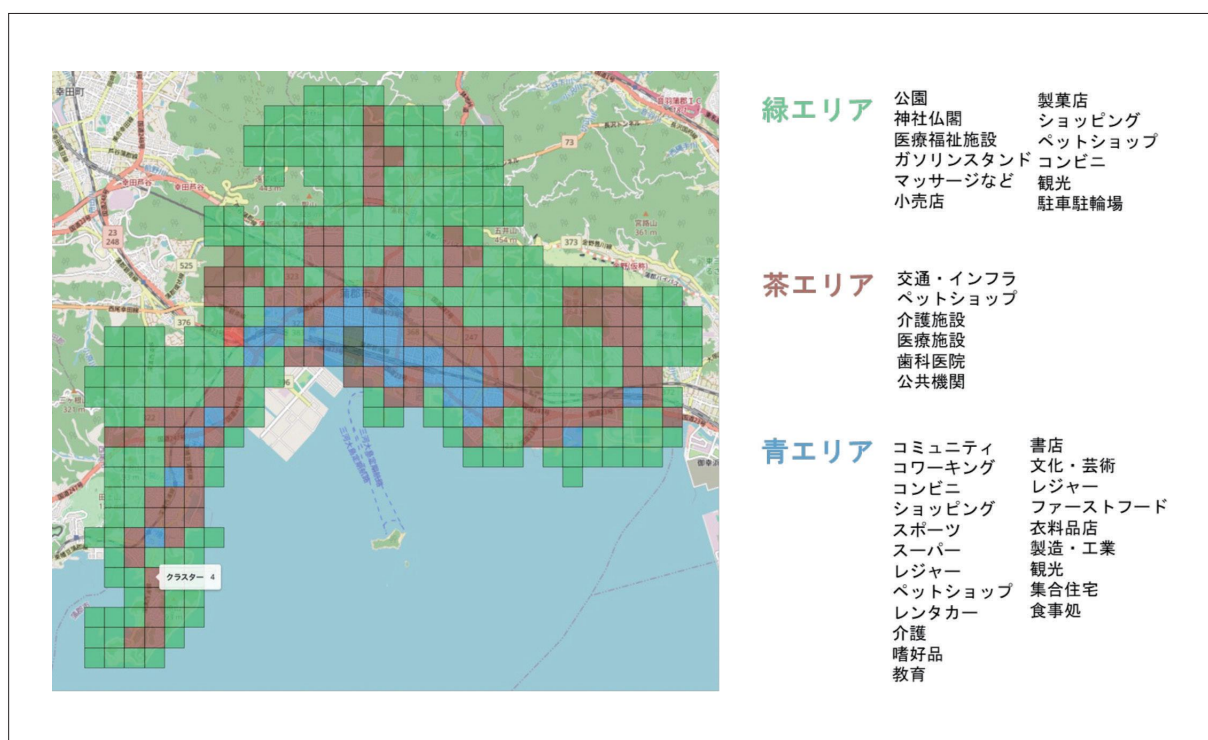


(図 1 0) 対象物分類ごとの Happy スコアと healthy スコアランキング

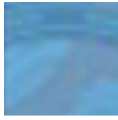
3 地理情報分析データの結果

蒲郡市内の地区別の特徴や課題を把握し、イネーブリングシティの推進に向けて介入すべきエリアを特定するために、地理情報分析を行いました。

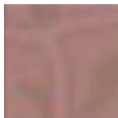
国民健康保険被保険者の令和5年度の健診結果等のデータ（歯科検診、メタボリックシンドローム判定、ヘモグロビンA1c値、血圧、BMI、朝食欠食頻度、運動習慣、歩行運動、睡眠、喫煙、飲酒量など）とGoogle Map上の店舗や地域にある様々な施設等を500メートルメッシュ（計算格子）の中に落とし込みクラスター分析を行いました。これらのメッシュデータと蒲郡市の地図を統合したところ、行政区とは異なる5つのクラスターに分けられる蒲郡市の地図が浮かび上がる結果となりました。



※赤エリアと深緑エリアは、局所的なものにとどまったため、本分析では、緑エリアと茶エリア、青エリアについて分析を実施しました。



青エリアは、図の構成要素からも分かるように、主に蒲郡駅をとりまく中心的な市街地であり、店舗の種類も豊富な最も栄えたエリアであると推察されます。



茶エリアは、市街地から少し離れた鉄道の駅があるエリアです。



緑エリアは、いわゆる山間部や海沿いの自然の多いエリアです。イネーブリングシティウォーク調査でも蒲郡市の Happy 重要因子であるとされた「神社仏閣」「眺望」を含むエリアであると推察できます。

今回の分析の結果、健診結果データに基づく健康度は、緑エリアが最も高く、続いて茶エリア、青エリアの順という結果でした。居住状況等からみると、青エリアに続いて、茶エリアに市民が集中しています。

地理情報分析データの活用については保健以外の様々なデータについても代入し、蒲郡市における地理情報から得られる健康や幸福と関連する要素を明らかにし、介入する場所や改善する要素などを引き続き分析していきます。





第4章

計画が目指すもの

第4章 計画が目指すもの

1 基本理念

本計画の基本理念は次の通りとします。

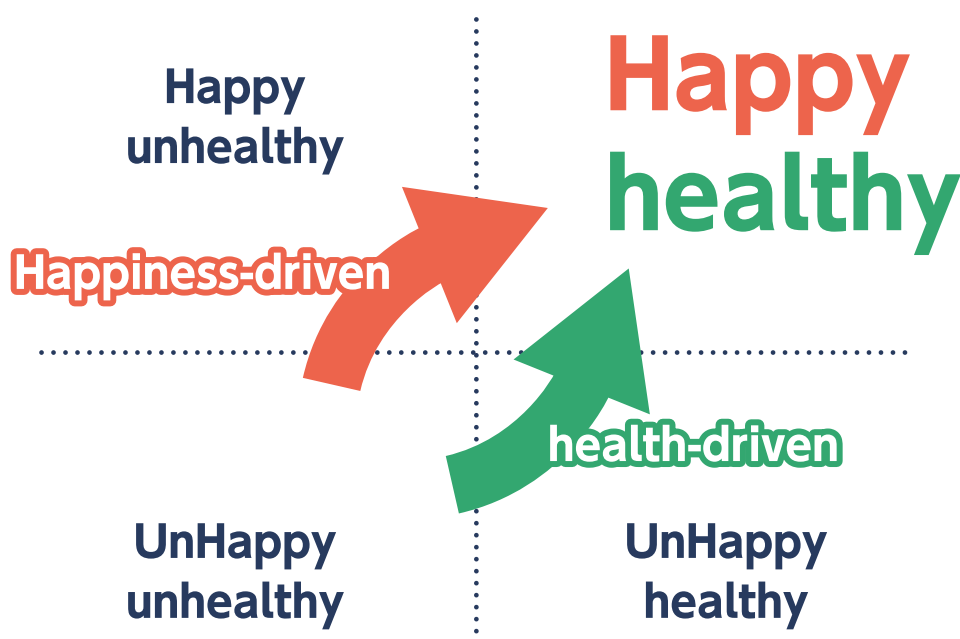


みんなでつくる ハッピー&ヘルシーなまち がまごおり
(Happy & healthy)

2 将来像・まちのイメージ

蒲郡市はこれまで、「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」を目的に、生活習慣病の予防やライフステージに応じた健康づくりの取り組み、地域特性を生かしながら、市民をはじめ多様な主体が協働して健康づくりを推進してきました。

今後は、「健康」を軸としたこれまでの健康施策（Health-driven）の取り組みの充実はもちろんのこと、さらに「幸福」を軸として健康を高め（Happiness-driven）、蒲郡市に関わるすべての人々がウェルビーイング（健康と幸福）を実感できるまちづくりの推進を市民や地域等と協働で進めます。



3 基本方針

基本理念に基づき、3つの基本方針で推進します。

基本方針

1

幸福を感じる環境づくり

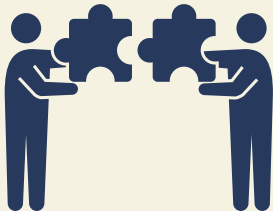


蒲郡市に関わる一人ひとりが幸せを感じられる「もの」「ひと」「場所」「状況」などまちづくりの要素を見つけ幸福を感じる環境づくりを進めます。

基本方針

2

健康を支える社会の形成



個人の健康づくりの取り組みに加え、一人ひとりが社会に参加しながら支えあい、地域や人とのつながりを深めるとともに、企業、民間団体等の多様な機関が主体的に健康づくりに取り組む社会を形成します。

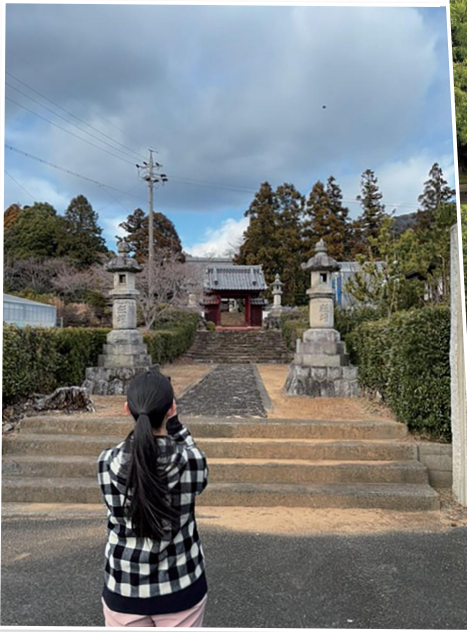
基本方針

3

地域協働で取り組む ウェルビーイングの実現



すべての人がウェルビーイングを実感できるまちの実現に向けて、市民・地域・民間企業等と行政が共に考え、多様な取り組みを共に進めます。



第 5 章

具体的推進施策



第5章 具体的推進施策

イネーブリングシティウォークの結果や蒲郡市の地域特性や課題を踏まえて、イネーブリングシティ形成のための具体的な施策に向けての考え方を以下のとおり整理しました。

1 Happy/healthy 向上

イネーブリングシティウォークの結果、蒲郡市における Happy/healthy を向上させる要素として、「神社仏閣等」や「眺望」「自然」「農園／農場」において高い価値があることが示唆されました。まちのなかにある「花壇」については、各家庭が軒下や庭で育てているガーデニングのようなものへの Happy 投稿も多く、市民の営みがまちの体験価値向上に寄与していると考えられます。つまり、ちょっとした市民や地域の「手入れ」や、まちなかに市民の求める価値を埋め込むことにより、Happy を高める要素につながるものと考えます。

このような状況から Happy/healthy の向上のための具体的施策の可能性を以下のとおりまとめました。

「ベンチ」については、蒲郡市以外の6エリアの投稿数が多い一方で、蒲郡市ではランク外に位置していました。これは蒲郡市のまちなかにベンチが少ないことからくるものであり、管理されたベンチの適切な設置は蒲郡市の外出の促しや Happy/healthy 向上に貢献できる可能性があるのではないかと考えます。

「アート／オブジェ」は、蒲郡市において投稿数ではTOP10にランクインしなかったものの、Happy/unhealthy 投稿、イネーブリングファクターランキングでは8位となっています。これは、「アート／オブジェ」がまちに多くはないものの、あった場合には歩行者に強い正の感情を誘発している可能性があるのではないかと考えられます。つまり、「アート／オブジェ」の増設は蒲郡市の Happy/healthy を増大させる可能性があり、特に若年層、壮年層の女性は全国的に「アート／オブジェ」を Happy/healthy の重要要素としている傾向があることから、蒲郡市の女性の歩数向上への貢献も期待できるのではないかと考えます。

「歩道」は、蒲郡市および蒲郡市以外6エリアの双方に共通する歩行者にとって重要な感情誘因ですが、他地域に比べて蒲郡市では Happy 割合が有意に低くなっていました。これは歩道の狭さや、整備が行き届いていない状態に起因するものが多く、今後のまちづくりにも関係するものです。歩道の整備は外出の促しやまち歩きの Happy/healthy 転換に大きく寄与するものだと考えられます。

「街路樹（高木）」は、蒲郡市および蒲郡市以外6エリアの双方に共通する Happy/healthy 割合が高い要素ですが、第3回イネーブリングシティウォークを実施した形原地区の健康の道には多かったものの、第4回のイネーブリングシティウォークの蒲郡駅北部の市街地エリアは「高木」が少なかったように、蒲郡市全域に「高木」が存在する訳ではありません。場所に応じた対策が必要になると考えます。

「公園・広場」は Happy/healthy 割合の高い施設になっており、まちの価値向上に寄与しています。イネーブリングシティウォーク全国調査でも、「公園 / 広場」は壮年層の女性において投稿数ランキング1位であることから、蒲郡市の女性の歩数向上策にもつながるカギになる可能性があります。

また、公園内に設置されたトイレなどは、状況によって Unhappy/unhealthy の評価があることから、改善や適切な対処をすることで更なる価値向上が期待できるものです。

2 Unhappy/unhealthy 低減

イネーブリングシティウォークの結果、蒲郡市における Unhappy/ unhealthy 低減させる要素としては、足元に生える草や植え込み、ごみなどの投稿が多い状況でした。このような状況から Unhappy/ unhealthy の低減のための可能性を以下のとおり提案するものとします。

「低木・植え込み」については全投稿数、Unhappy/ unhealthy 投稿数ともに上位を占めています。イネーブリングシティウォークの投稿写真から見ると「生い茂り・未管理」が課題になっていることから、「芝刈り」「整備」の対策が必要となるものの、まちづくりの観点から、地元の活動や協力団体と連携した活動につなげることで Unhappy/ unhealthy 低減と社会参加を通じた Happy/healthy の増大に繋がられる可能性があります。

「ゴミ」については、路上などへのポイ捨てに関する投稿は少なく、ゴミが散乱した敷地や、ごみ集積場所の雑然とした様子についての投稿が多くありました。ごみの集積場所の整備については、管理する地域との連携が必要であると考えます。

「電柱・太陽光パネル」については、投稿数は多くはないものの乱雑に入り組んだ電線や送電塔も Unhappy/ unhealthy な要素となっていました。電線地中化は莫大なコストがかかるため、逆発想により電柱を生かした Happy 施策を具現化することは他都市に例をみない施策となり得ると言えます。

「標識・看板」については、メンテナンスが行き届かず、放置され劣化・破損したものは場合において Unhappy に変わってしまう傾向がありました。一方で、郷愁・レトロ感を感じさせる標識や看板は Happy と捉えられることから、イネーブリングシティウォークで Unhappy 評価になっている標識や看板を中心に、デザインの統一感や一貫性などを踏まえた新しい考え方で更新していくことで、まちの価値向上につながる可能性があるのではないかと考えられます。

3 具体的施策

これまでの分析から、イネーブリングシティの実現に向けて、次のような具体的施策について検討します。

(1) まちのなかへのベンチ設置：「ベンチがあるまち×ウェルビーイング」

ア 設置の目的

- (ア) 市民の歩数増加と外出を促進
- (イ) 休憩場所・人々の交流促進の起点となること
- (ウ) 新たな回遊性やまちの魅力の再発見

イ 期待される効果

- (ア) 健康増進
 - ・運動不足やストレス解消への支援
 - ・様々なライフステージの人々のまち歩きや外出に対する体力的・心理的ハードルの低減
- (イ) 交流活性化
 - ・市民間の偶発的な出合いや会話の創発
 - ・こどもから高齢者まで、幅広い世代の繋がりの創出
 - ・通学路における安全な休憩、交流の促進
 - ・地域との連携によるまちの愛着形成促進
- (ウ) 環境整備
 - ・行動促進の新たな象徴としての機能
 - ・デザイン等に配慮した公共物の設置による都市景観の向上
 - ・持続可能な素材や既存ベンチの利活用

ウ 推進本部作業部会におけるベンチに関する検討内容

ベンチ設営をイベント的に終わらすことなく、市民参加型の持続性の高い仕組みづくりを行う。更に、東京などの都心型ベンチ設営プロジェクトとは異なる蒲郡市独自のスキームを検討します。

(検討内容)

- A クリーンセンターに持ち込まれる廃棄椅子を市民とともにリユース、リノベーションする仕組みの検討
- B 市内に点在する空き家の利活用の検討
- C 植樹帯の利活用可能性の検討
- D 市民参加型のベンチの工作・補修、設置、維持管理体制の構築
- E ベンチ設営に加えてプラスαの施策の検討
- F イネーブルリングシティウォーク調査を踏まえた良眺望ポイントなど Happy スポットの増強に向けた設置場所の計画立案
- G 横浜市立大学、イネーブルリングシティ協会との連携によるベンチデザインの考案・実装

イメージ



次のベンチまでの距離を示すガイドベンチ



蒲郡市の Happy スポットへと誘う
おさんぽベンチ



蒲郡市の良眺望スポットを明示する
絶景ベンチ



様々な情報が載った
インフォベンチ



リユース
ベンチ

(2) まちのなかへのアートの導入

ア アート設置の目的

市内の適切な場所、歩行ルートなどにアートを施し、市民や蒲郡市を訪れる人など、歩行者の楽しさや驚きを引き出す。東京藝術大学やクリエイターなどの協力により効果的なアート施策を検討し実装することで、蒲郡市の歩行体験価値の向上を図ります。

イ 期待される効果

(ア) 健康増進

- ・ウォーキング、ランニングの目的地としての機能

(イ) 交流活性化

- ・市民間の偶発的な出会いや会話の創発
- ・まちの価値や可能性の発見
- ・アーティストと市民等との連帯感の創出
- ・シンボルが出来ることによるまちの愛着形成の促進

(ウ) 環境整備

- ・行動促進の新たな象徴としての機能
- ・都市景観の向上
- ・不動産価値の上昇
- ・観光資源の創出

ウ 協力・助言

東京藝術大学の研究チーム

(3) 公共トイレの検討

公共トイレにウェルビーイング要素を導入し、利用者の満足度向上と、トイレを気にすることなくまち歩きができる環境整備を検討します。

(4) 「低木・植え込み」への対応

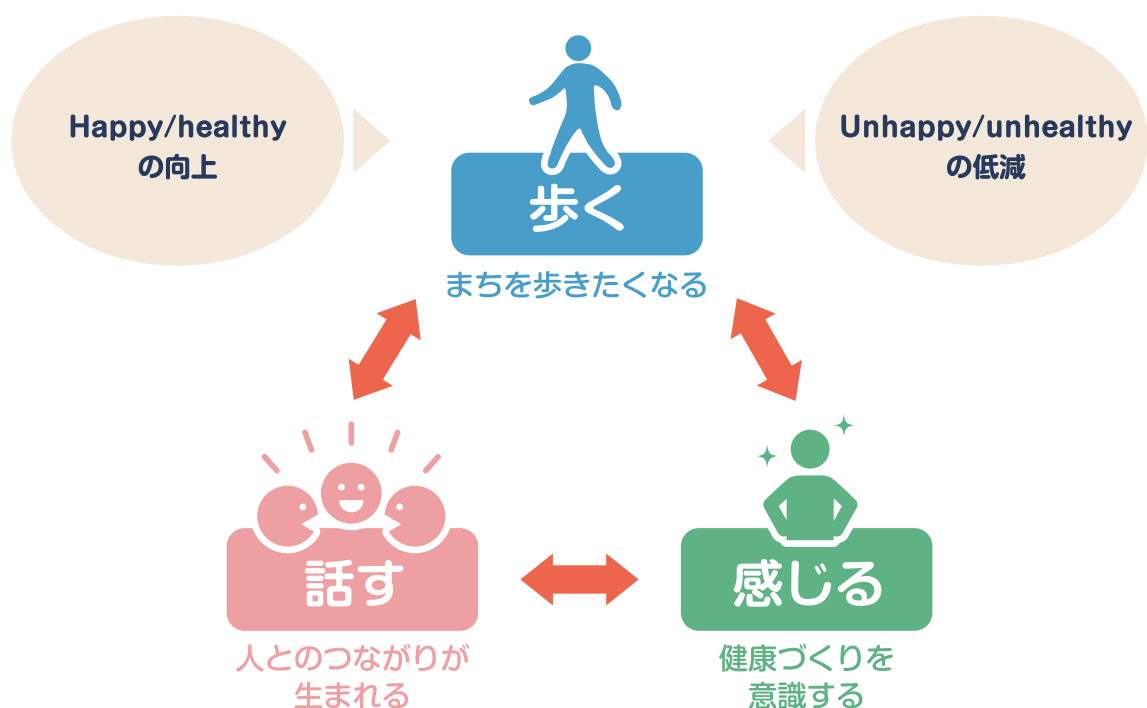
蒲郡市のまちの Unhappy 要素とされた管理が行き届いていない「低木・植え込み」の課題の解決に向けては、行政の対策のみならず、地域との連携や専門家の指導等も含めて検討します。

また、市民の自宅の花壇に Happy 要素が高く、歩行体験価値を向上させているという分析結果を踏まえ、地域や市民と協働した環境づくりについても検討します。

(5) 標識・看板・サインの可能性

適切な標識・看板・サインは Happy を感じ、老朽化・破損・汚れなどが認められる標識・看板・サインは Unhappy と評価されることから、外出やまち歩きの評価向上に向けて、ベンチやアートなどの設営と連動させた標識・看板・サインの改修・補正・新設を検討します。

Happy/healthy の向上と、Unhappy/unhealthy の低減を進めるための具体的な施策の展開により、まちを歩く人が増え、会話やつながりが生まれ、歩数の増加や健康意識の向上につなげます。





第6章

計画の実現に向けて

6. 計画の実現に向けて

1 計画の推進と進行管理

イネーブリングシティという新しい都市像の概念に基づき、蒲郡市に関わるすべての人のウェルビーイングの実現を進めるためには、本計画を進行管理し、効率的かつ効果的に推進することが重要です。

(1) 計画の推進

- ア 庁内各部各課の施策や計画にウェルビーイングの視点を取り入れ全庁的に推進します。
- イ 市民、事業所、地域コミュニティ、市民活動団体や関係機関と協働で推進します。
- ウ 第五次蒲郡市総合計画および健康がまごおり 2 1 第 3 次計画に基づき、各種関連計画の取り組みと連携して推進します。

(2) 計画の進行管理

- ア 計画の推進と進行管理については、推進本部に報告、検討して進めます。
- イ 具体的な施策については、必要に応じ推進本部作業部会を開催し、検討、推進します。
- ウ 各取り組みについては、PDCA サイクルに基づき施策の見直しや改善を進めます。また、社会情勢や市民ニーズの変化に応じて、新たな施策への展開や継続した取り組みにつなげるよう進行管理します。
- エ イネーブリングシティウォークやその他のデータを活用し、蒲郡市の Happy 要素の増加、蒲郡市民の外出頻度の向上、健康行動の変化（歩数の増加など）についてその効果を実証し、施策等を見直しを図ります。
- オ 計画の推進にあたり、まちづくりに市民が参画し、蒲郡市の良さや他地域との違いが言語化、可視化されることで、市民のまちへの愛着度の高まりや安心して住み続けられるまちとなるよう効果検証します。

2 今後の展開

一人ひとりのウェルビーイングの実現に向けて、「健康」と「幸福」の実現の両方向から連携して取り組むため、「健康がまごおり 21 第3次計画」と「イネーブリングシティ基本計画」の両計画を連携して進めます。

イネーブリングシティの形成により、人々が幸福を実感できる「もの」や「場所」、「状況」などが増え、人がまちに出かけ、集い、ふれあい、つながることにより、蒲郡市に関わるすべての人が幸福を実感しながら、自ずと健康的な行動をとれるように自然に健康になる環境づくりを進めます。

みんなでつくる ハッピー＆ヘルシーなまち がまごおり
(Happy & healthy)

Happy

誰もが自分らしく
いきいきと笑顔で暮らす

イネーブリングシティ
基本計画

<目指す方向性>

Happiness-driven(幸福軸)に注
目したアプローチ

<基本方針>

- 1 幸福を感じる環境づくり
- 2 健康支える社会の形成
- 3 地域協働で取り組む
ウェルビーイングの実現

<実施内容>

- ①蒲郡市の実態把握・データ分析
イネーブリングシティワーク検証
- ②全庁的推進、地域連携
- ③地域で考え、取り組む
幸せなまちづくりの推進

healthy

誰一人取り残さない
健康づくり

健康がまごおり 21
第3次計画

<最終目標>

健康寿命の延伸と健康格差の縮小

<基本方針>

- ①個人の行動と健康状態の改善
- ②社会環境の質の向上
- ③ライフコースアプローチを踏ま
えた健康づくり
- ④次世代を見据えた健康づくり

自然に健康になれる
環境づくり

社会とのつながり・こころの健康の
維持及び向上

誰もがアクセスできる
健康増進のための基盤の整備

蒲郡市ウェルビーイング推進本部設置要綱

(設置)

第1条 蒲郡市に関わる全ての人のウェルビーイングの実現に向けて、庁内各部局の連携のもと、ウェルビーイング推進に関する施策を総合的かつ一体的に推進するため、蒲郡市ウェルビーイング推進本部（以下「本部」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 本部は、次の事務を所掌する。

- (1) ウェルビーイング推進に係る取組の方針の共有及び運用に関すること。
- (2) ウェルビーイング推進に係る各部局の取組に関する協議及び総合調整に関すること。
- (3) その他ウェルビーイング推進のために必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 本部は、本部長、副本部長及び本部員をもって組織し、別表に掲げる職の者をもって充てる。

- 2 本部長は、会務を総理し、本部を代表する。
- 3 副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故があるとき又は本部長が欠けたときは、本部長があらかじめ指定した副本部長がその職務を代理する。
- 4 その他市長が指名する者を本部員とすることができる。

(会議)

第4条 本部の会議は、本部長が招集し、その議長となる。

- 2 本部長は、必要があると認めるときは、有識者等を会議に出席させ、意見を求めることができる。

(作業部会)

第5条 本部における協議内容に基づき、ウェルビーイング推進に係る具体的な施策の展開に向けての調査、研究及び検討を行うため、本部に作業部会を置くことができる。

- 2 作業部会は、前項の調査、研究及び検討を行う事項に係る課若しくは室の長又は当該長の推薦する職員をもって構成する。

(庶務)

第6条 本部の庶務は、ウェルビーイング推進課において行う。

(雑則)

第7条 この要綱に定めるもののほか、本部の運営に必要な事項は、本部長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和6年5月13日から施行する。

附 則

この要綱は、令和6年8月30日から施行する。

別表（第3条関係）

本部長	市長
副本部長	副市長
	教育長
本部員	危機管理監
	企画部長
	企画調整監
	総務部長
	市民生活部長
	こども健康部長
	健康推進監
	福祉部長
	産業振興部長
	産業推進監
	建設部長
	都市開発部長
	市民病院事務局長
	上下水道部長
	ボートレース事業部長
	消防長
	議会事務局長
	教育部長

イネーブリングシティ推進施策共同研究機関・計画策定支援機関

所 属	氏 名
横浜市立大学特別教授	武部 貴則
横浜市立大学助教	西井 正造
横浜市立大学コミュニケーション・デザイン・センター	研究室員

蒲郡市ウェルビーイング推進本部

日 時	内 容
令和 6 年 5 月 13 日	・ ウェルビーイング推進に係る取組の方針、今後の推進の概要について ・ 第 1 回イネーブリングシティウォークについて（研修報告） ・ 次回ウォーク実施候補地 ・ 各部局におけるウェルビーイング推進に関する進め方について
令和 6 年 7 月 30 日	・ 各部におけるウェルビーイング取組状況について ・ 各部の取り組みとイネーブリングシティの観点からの西井助教より助言及び、推進について ・ 令和 6 年度策定中「健康がまごおり 2 1 第 3 次計画」におけるイネーブリングシティの推進について
令和 6 年 11 月 8 日	・ 報告事項 イネーブリングシティウォークについて 作業部会について 各部におけるウェルビーイング取組状況 ・ 西井正造助教の講話 ・ ワークショップ
令和 7 年 1 月 6 日	・ イネーブリングシティ基本計画について ・ ウェルビーイングなまちづくりに向けた政策推進研修会及び、市役所内でのイネーブリングシティウォークの報告
令和 7 年 3 月 24 日	・ イネーブリングシティ基本計画について ・ 作業部会の報告

蒲郡市ウェルビーイング推進本部作業部会

日 時	内 容	関係課
令和6年 9月27日	作業部会設置の目的 西井助教より ベンチがあるまち× ウェルビーイング	建築住宅課 土木管理課 環境清掃課 観光まちづくり課 シティーセールス推進室
令和7年 2月17日	具体的施策介入の分析 先進事例から見えてくる課題 事業推進方法に関する検討	産業政策課 交通防犯課 健康推進課 企画政策課

イネブリングシティウォーク

日 時	場 所	参加人数
令和6年 5月 7日	市役所起点に南北1 Km程度範囲(市職員)	45人
令和6年 5月 30日	蒲郡市全域 (関係機関)	15人
令和6年 9月 26日	健康の道ゆうやけコース	80人
令和6年 11月 4日	生きがいセンターから安楽寺	65人
令和7年 2月 6日	蒲郡市ソフィア看護専門学校周辺	42人



イネーブリングシティ推進に向けての関係者会議

実施回数	打合せ方法
42 回 ※令和 6 年 4 月から 令和 7 年 3 月まで	WEBを使用したミーティングによる打ち合わせと、 対面での打ち合わせを組み合わせて実施。

講演会・研修会

日 時	内 容
令和 6 年 2 月 9 日	蒲郡市特別研修 自ずと健康になるまちづくりからイネーブ リングファクターという新たな視点から 横浜市立大学 武部貴則特別教授・西井正造助教
令和 6 年 12 月 20 日	ウェルビーイングなまちづくりに向けた政策推進研修会 横浜市立大学 西井正造助教
令和7年 2月6日・25日	蒲郡市ソフィア看護専門学校 特別講演授業



ウェルビーイングなまちづくりに向けた
政策推進研修会



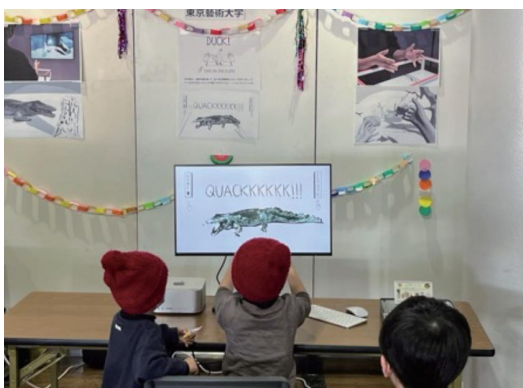
蒲郡市ソフィア看護専門学校
特別講演授業

イベント参加

月 日	場 所	内 容	参加人数
令和6年 9月7日	健康づくりのつどい (市民会館)	東京藝術大学×横浜市立大学 認知機能チェックゲーム 「Nバックカレー 最後の隠し味」	約30人
令和7年 1月11日	蒲郡市農林水産まつり &食育フェスタ (ボートレース蒲郡)	Happy&Healthyチェック! 東京藝術大学×横浜市立大学 認知機能チェックゲーム 「Nバックカレー 最後の隠し味」他	約200人



健康づくりのつどい

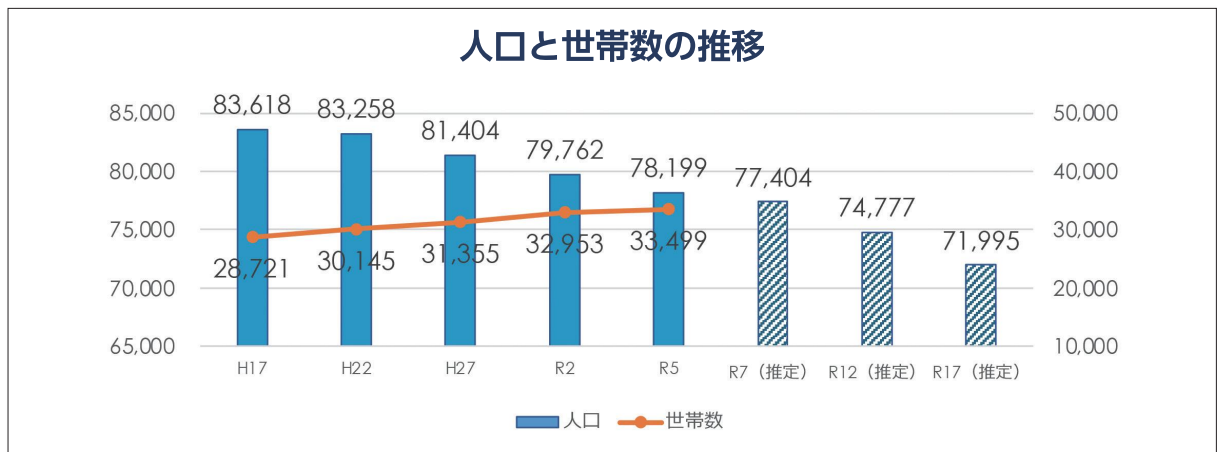


農林水産まつり&食育フェスタ

1 人口動態

(1) 人口と世帯数

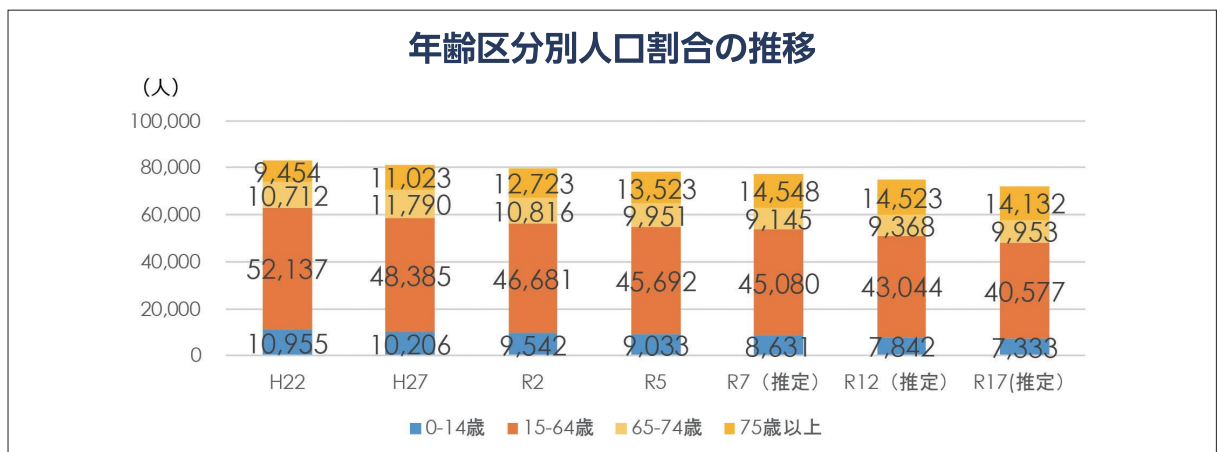
人口は、昭和60年（1985年）をピークに緩やかに減少しています。令和5年には78,199人となり、令和17年には71,955人まで減少する推定となっています。一方、世帯数は年々増加しており、令和5年10月1日時点の住民基本台帳によると33,499世帯となっています。



資料：人口・世帯…平成17年から令和5年までは住民基本台帳（10月1日）、推定値は国立社会保障・人口問題研究所

(2) 年齢区分別人口割合の推移

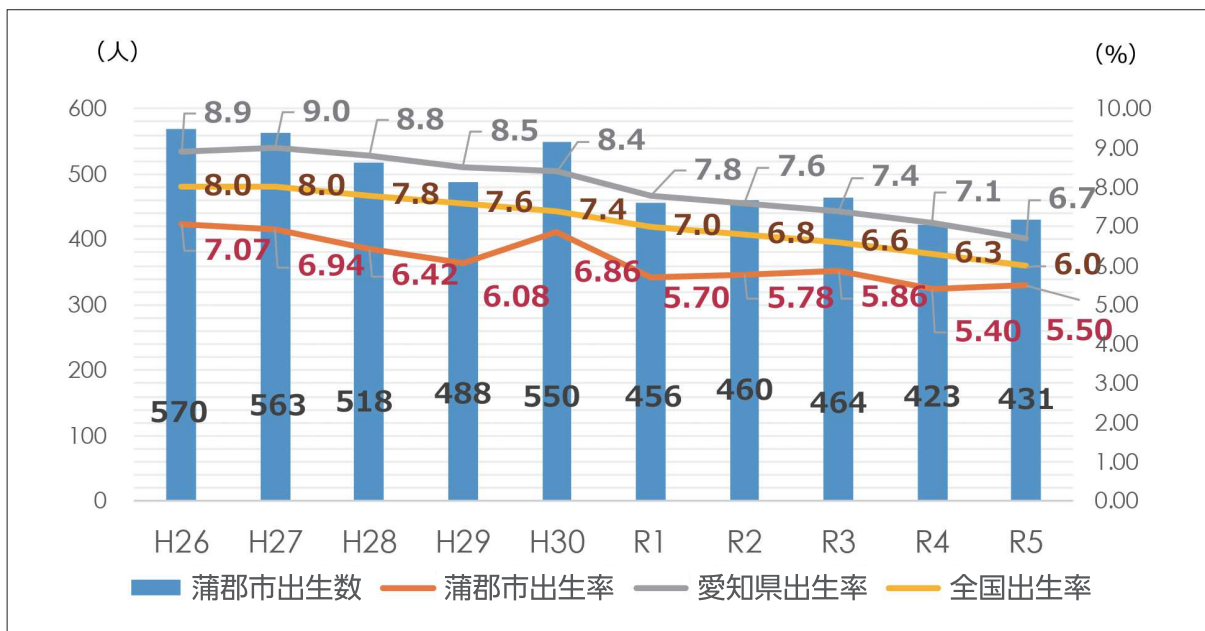
年齢区分別人口を見ると、老年人口割合の上昇と年少人口割合の低下がみられます。令和5年（2023年）の老年人口30%、年少人口11.6%ですが、令和17年では老年人口33.5%、年少人口10.2%と、更に少子化と高齢化が進む推定となっています。



資料：平成22年から令和5年までは住民基本台帳人口（10月1日）、推定値は国立社会保障・人口問題研究所資料

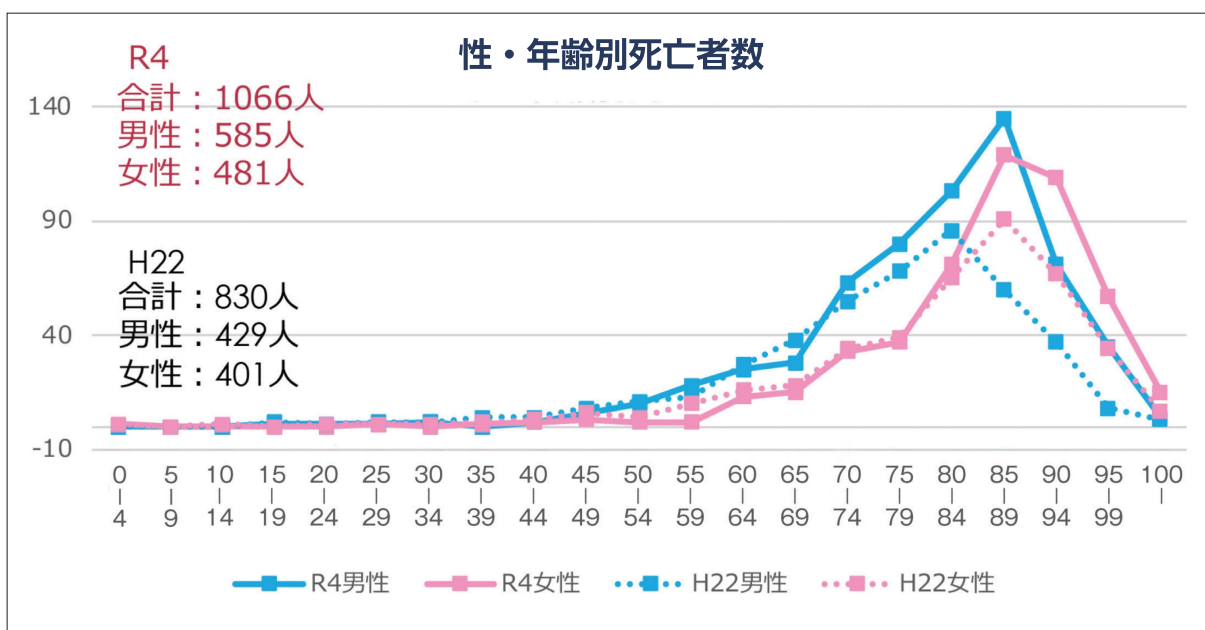
(3) 出生と死亡

出生数は、令和5年は431人で、平成26年と比較すると139人減少しています。令和5年の出生率は5.5%で国、県と比べても低くなっています。



資料：人口動態統計

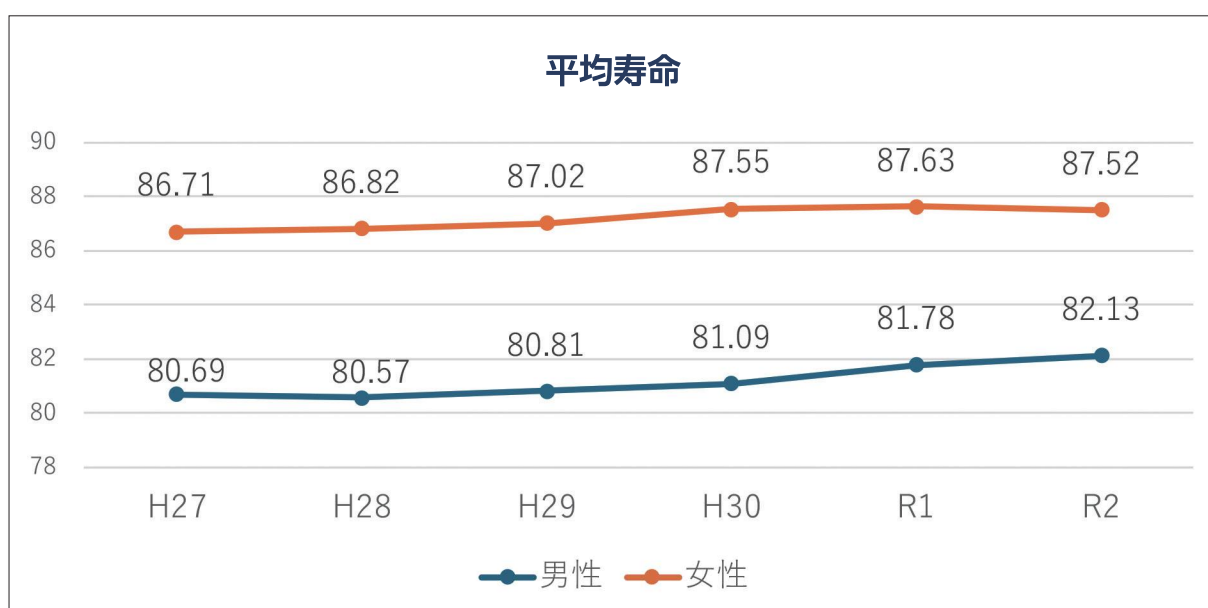
令和4年の死亡者数は1,066人で令和4年の出生数423人を大きく上回っております。また、性・年齢別の死亡者数の状況では、男性では死亡数のピークの年代が遅くなっており、女性では、死亡が増加する立ち上がりの年齢が遅くなっています。



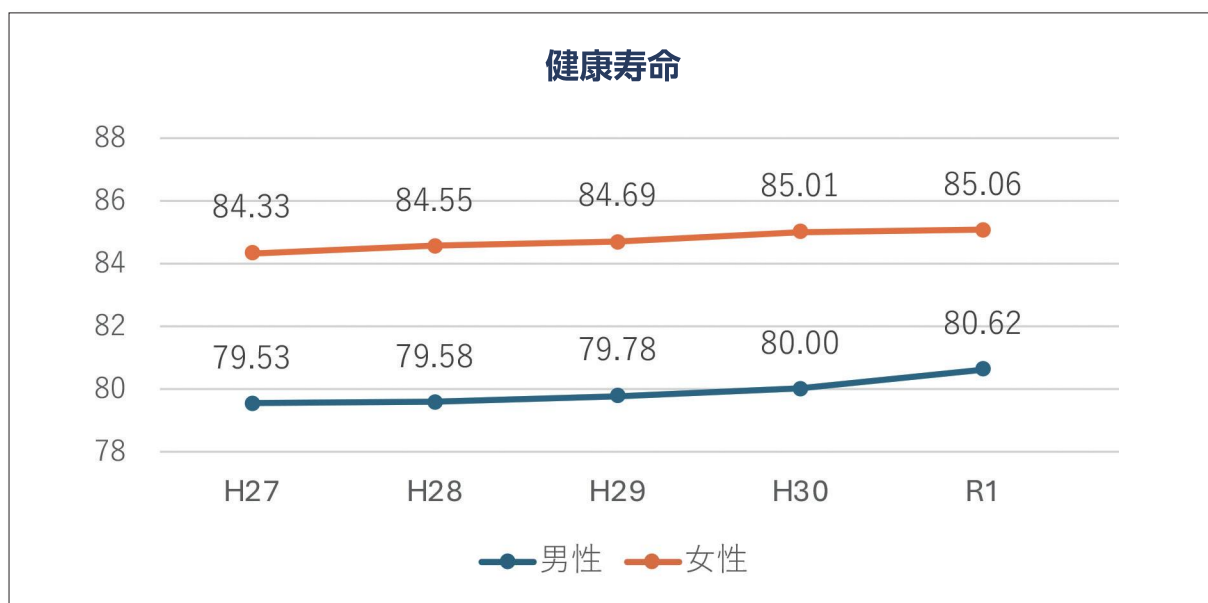
資料：愛知県衛生年報

2 平均寿命と健康寿命の推移

令和元年度の男性の平均寿命は 81.78 歳、健康寿命は 80.62 歳であり、女性の平均寿命は 87.63 歳、健康寿命は 85.06 歳です。男性は平均寿命、健康寿命ともに、年々高くなっていますが、女性の平均寿命は令和 2 年は令和元年より 0.11 歳低くなっています。また、健康寿命と平均寿命の差は、男性は 1.16 歳、女性は 2.57 歳です。



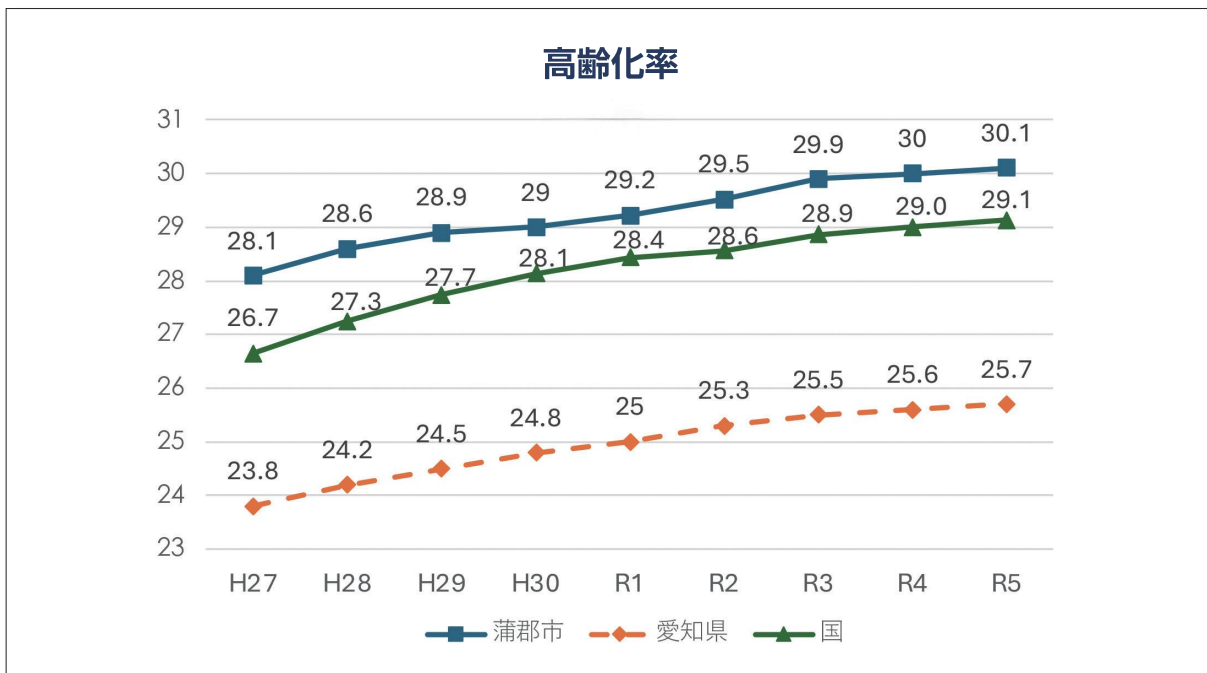
資料：厚生労働省研究班「健康寿命の算出方法の指針：健康寿命の算定プログラム」



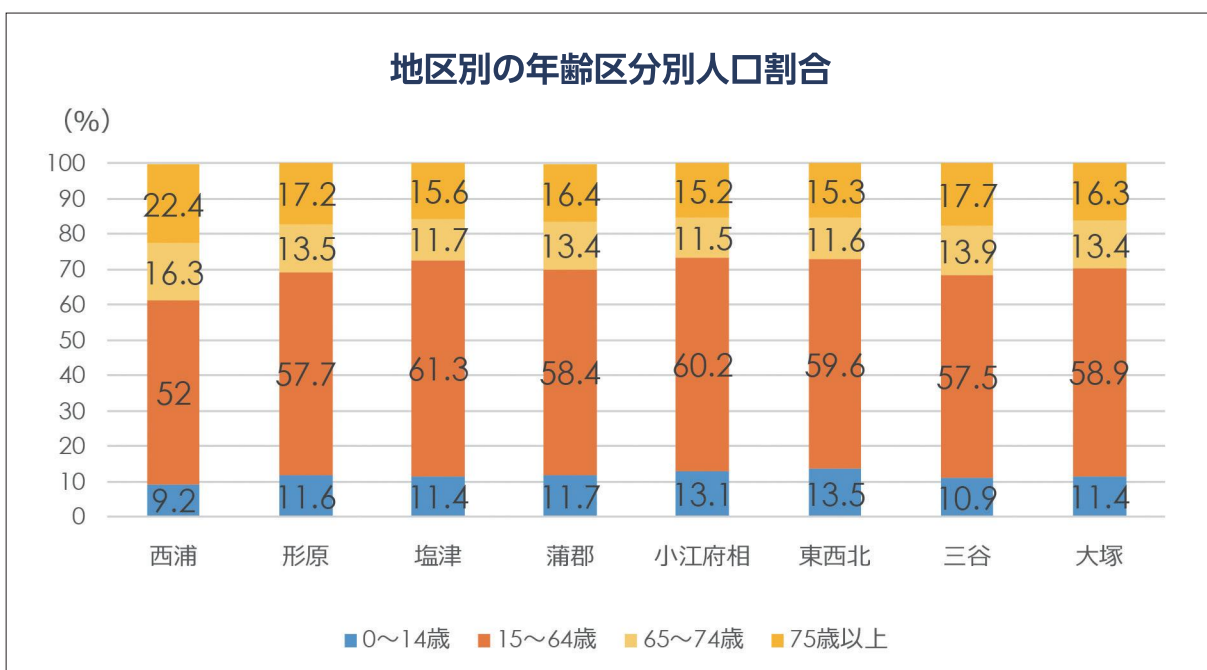
資料：厚生労働省研究班「健康寿命の算出方法の指針：健康寿命の算定プログラム」

3 高齢者

高齢化率は年々高くなっており、国および県と比較して高い状況です。地区別の高齢化率では、西浦、三谷、形原の順に高く、市の中心部から離れるにつれて高齢化率が高い傾向がみられます。また、高齢者単独世帯および高齢世帯の割合ともに、西浦地区が高くなっております。

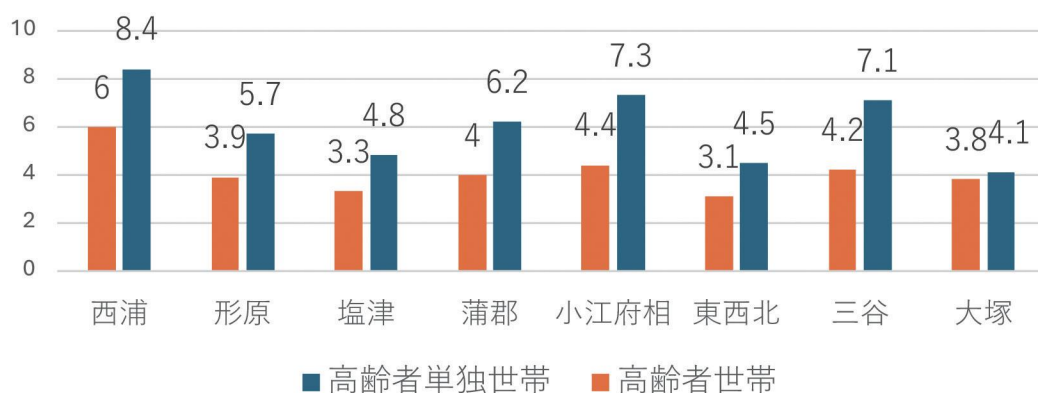


資料：蒲郡市・愛知県：あいちの人口 国：総務省統計局人口推計



資料：蒲郡市第10期高齢者福祉計画

高齢者のみの世帯の割合（地区別）

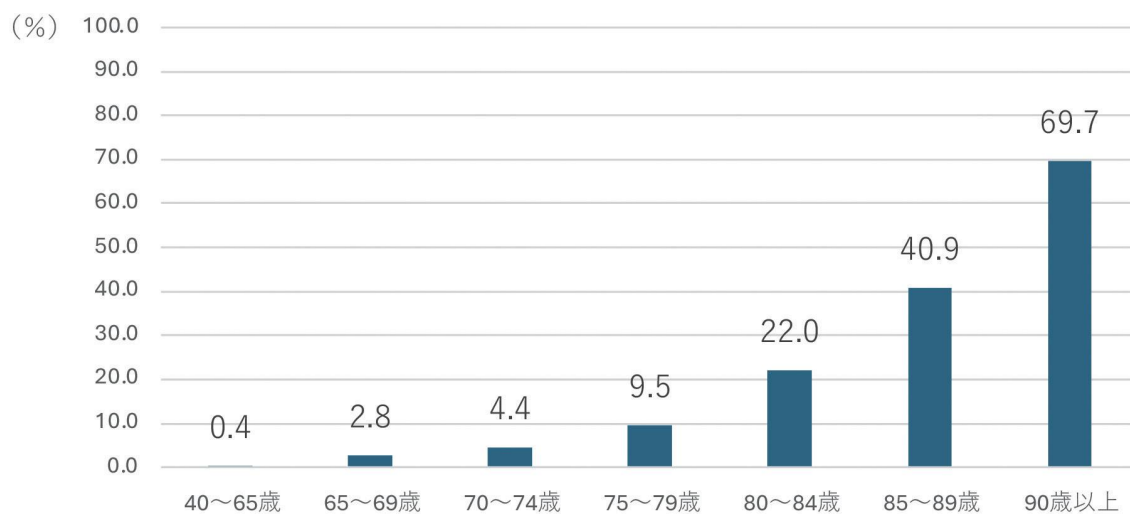


資料：蒲郡市長寿課シルバーカード登録の世帯状況（令和4年）

4 介護

令和4年（2022年）の年齢区分別要介護認定率をみると、75 から 79 歳では 9.5%、80 から 84 歳では 22.0%、85 から 89 歳では 40.9%、90 歳以上では 69.7%と、年齢とともに高くなる傾向にあり、特に 85 歳を超えると高い状況です。

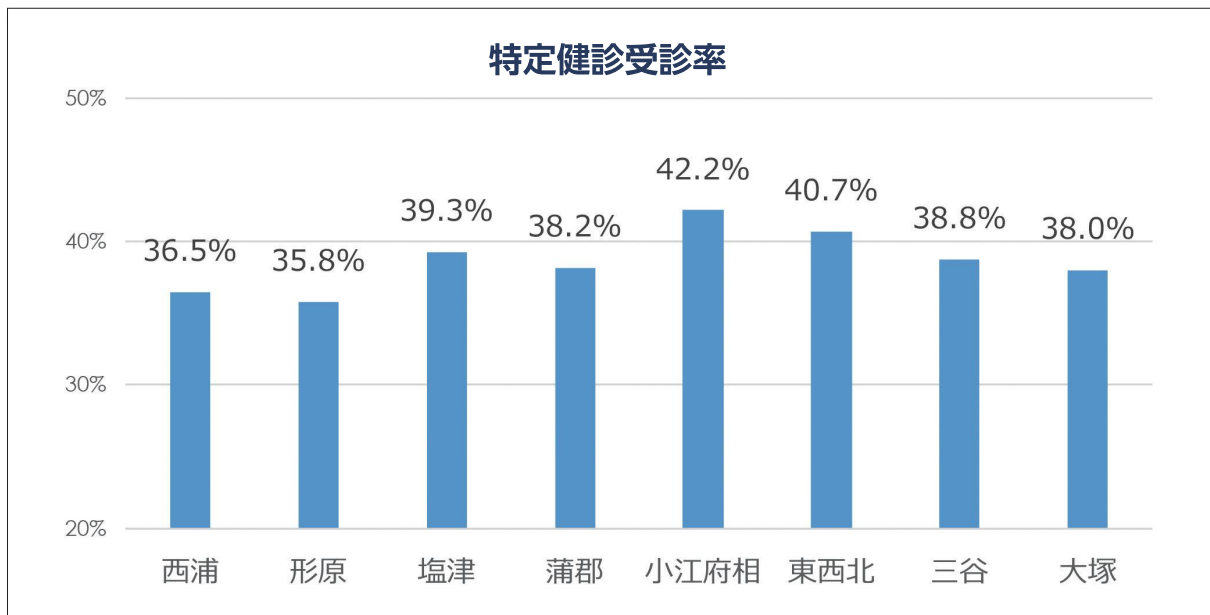
要介護・要支援者の率（年齢区分別）



資料：介護保険事業状況報告月報（令和4年9月）

5 健康診査

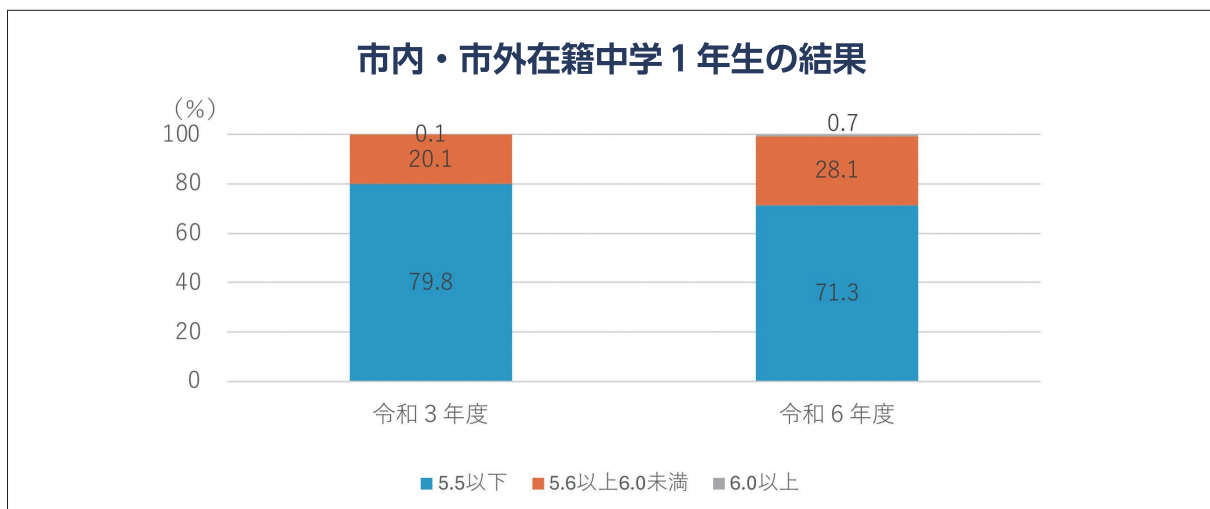
特定健診の地区別の受診率をみると、小江・府相や東西北、塩津の順に高く、形原地区、西浦地区は低くなっています。中心部や山間部で高く西側の地区で低い傾向があります。



資料：国保データベース（KDB）システム

6 こども

中学1年生の血液検査、ヘモグロビン A1c の結果を見ると、20%から 30% の生徒が基準値（5.6%）を超える結果でした。

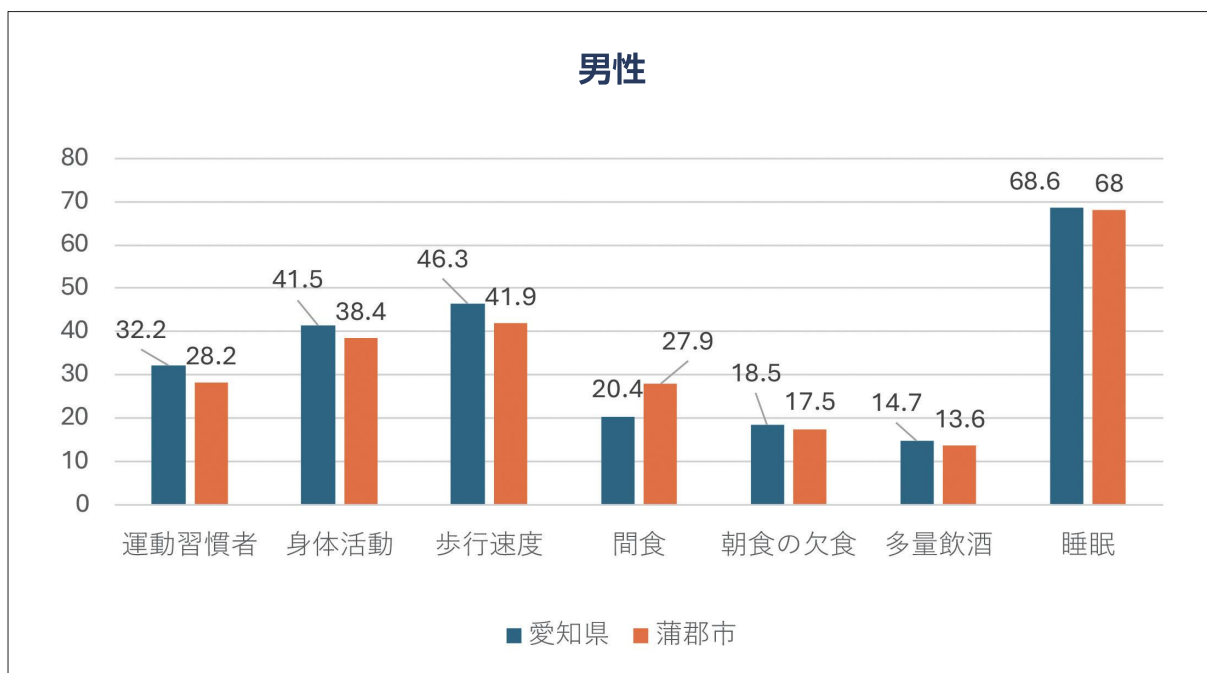


資料：学校健診 健康推進課ヘモグロビン A1c 検査結果

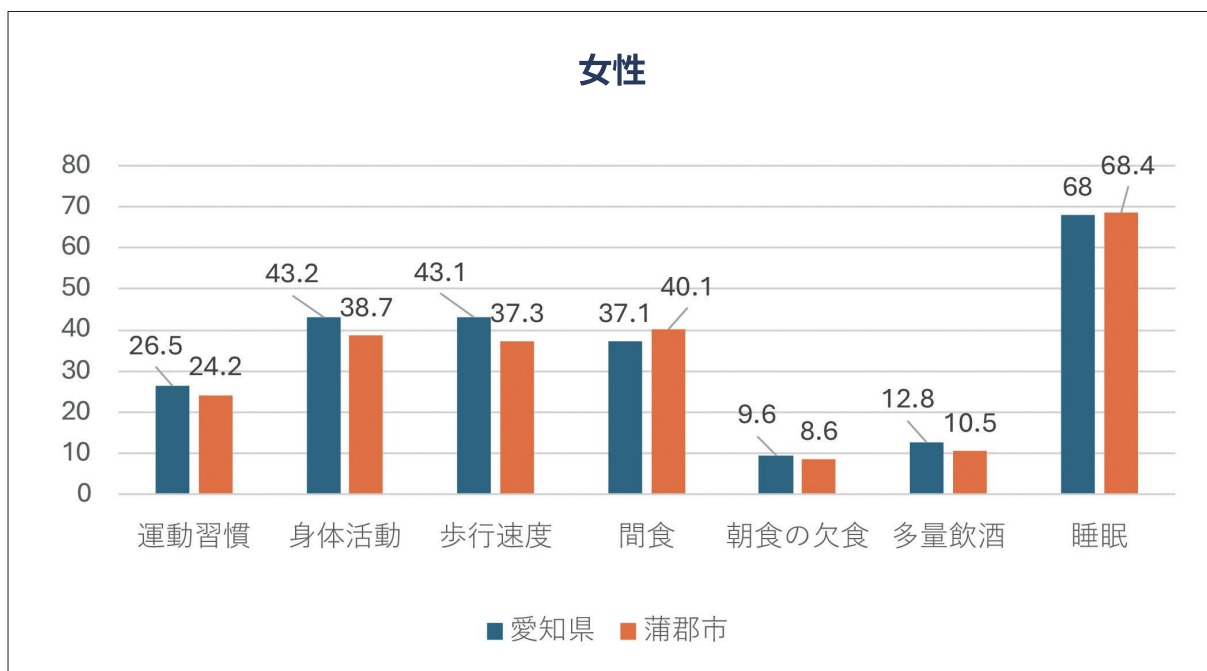
7 生活習慣

(1) 性・年齢別生活習慣

男女とも、運動習慣や身体活動をしている割合および歩行速度は県平均より低く、間食をとる割合は県平均より高い状況です。



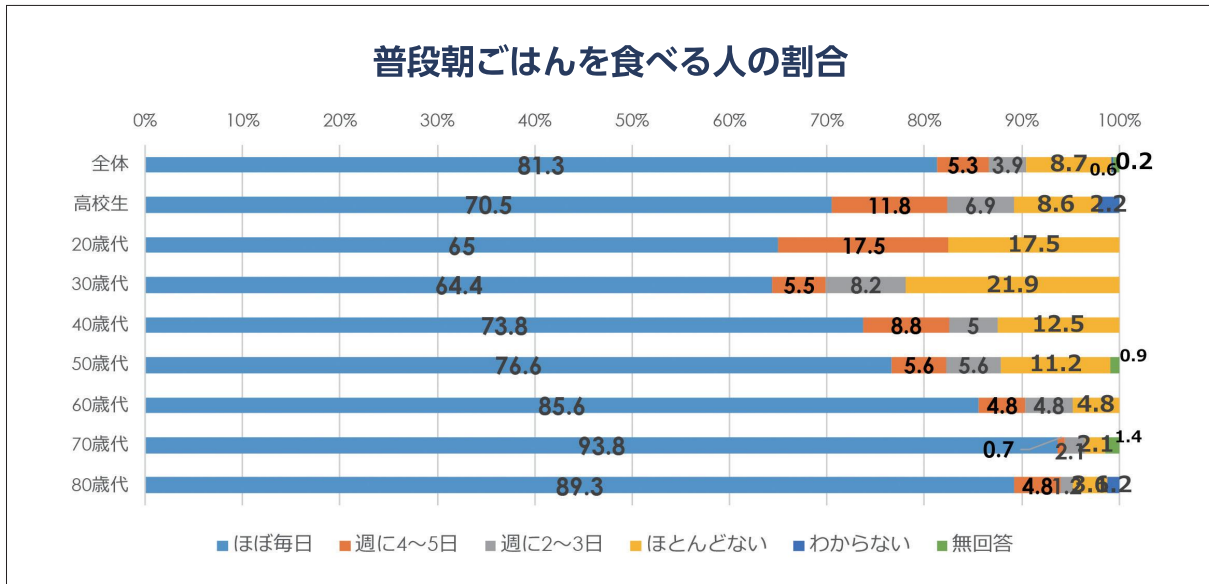
資料：特定健診・特定保健指導情報データを活用した分析・評価



資料：特定健診・特定保健指導情報データを活用した分析・評価

(2) 朝食

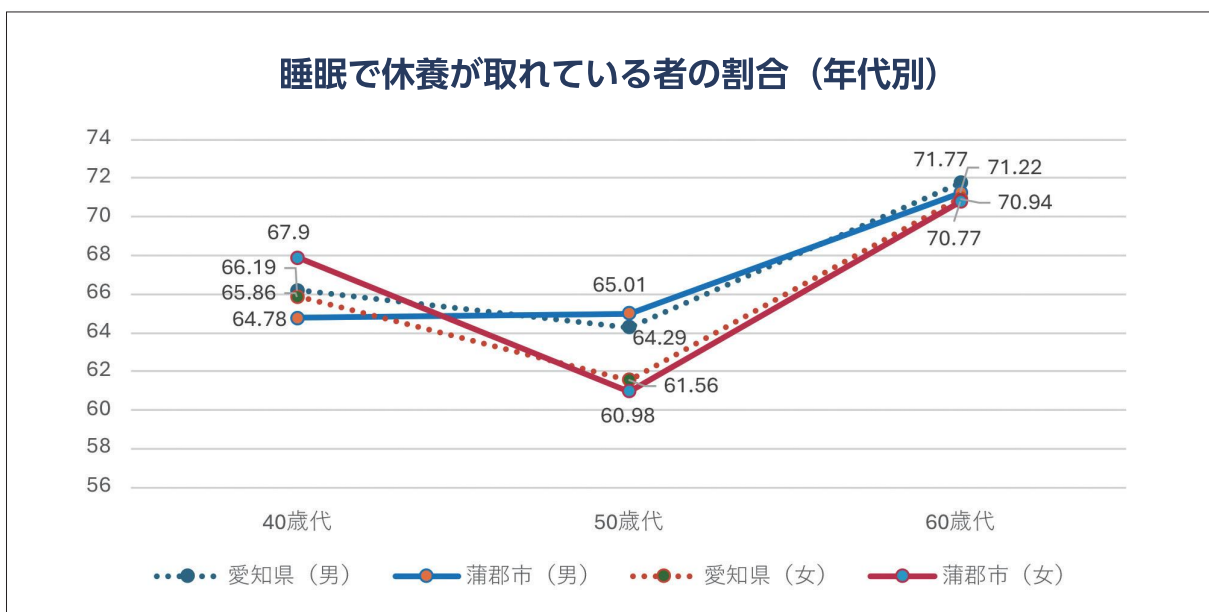
朝ごはんを毎日食べる人の割合は、30代が最も低く、次いで20代、高校生と続き、最も割合が高いのは70代でした。小・中学生についてはどの学年も1割程度欠食があります。



資料：第4次蒲郡市食育推進計画

(3) 睡眠

性・年齢別で睡眠で休養が取れている人の割合をみると、50代の女性が最も低く60代男性が最も高い状況です。

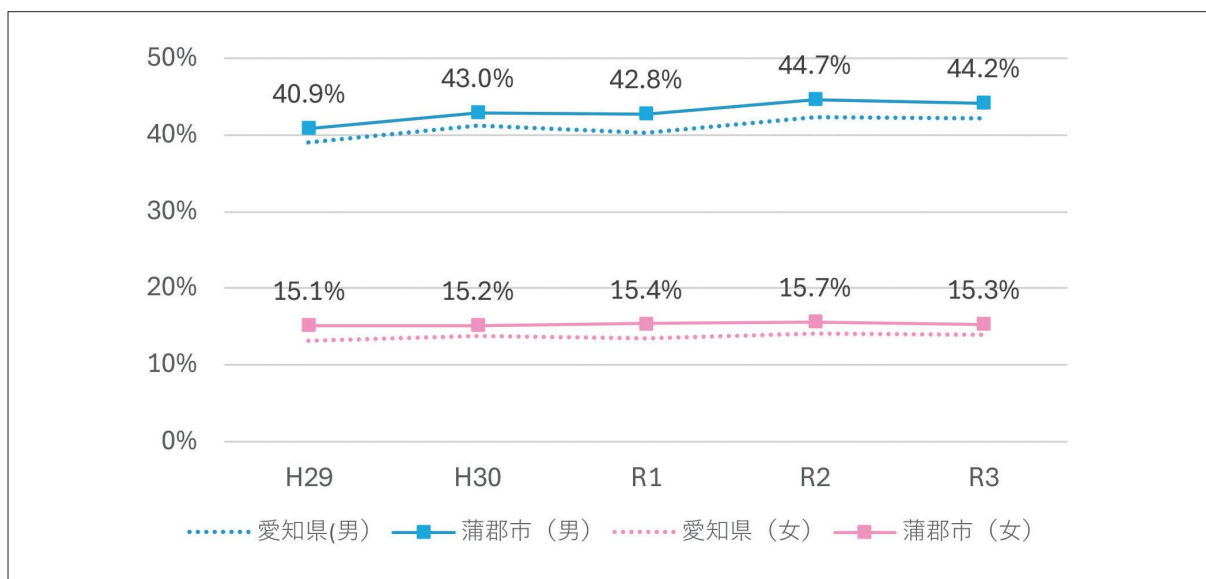


資料：特定健診・特定保健指導情報データを活用した分析・評価

8 生活習慣病

(1) メタボリックシンドローム該当者・予備群

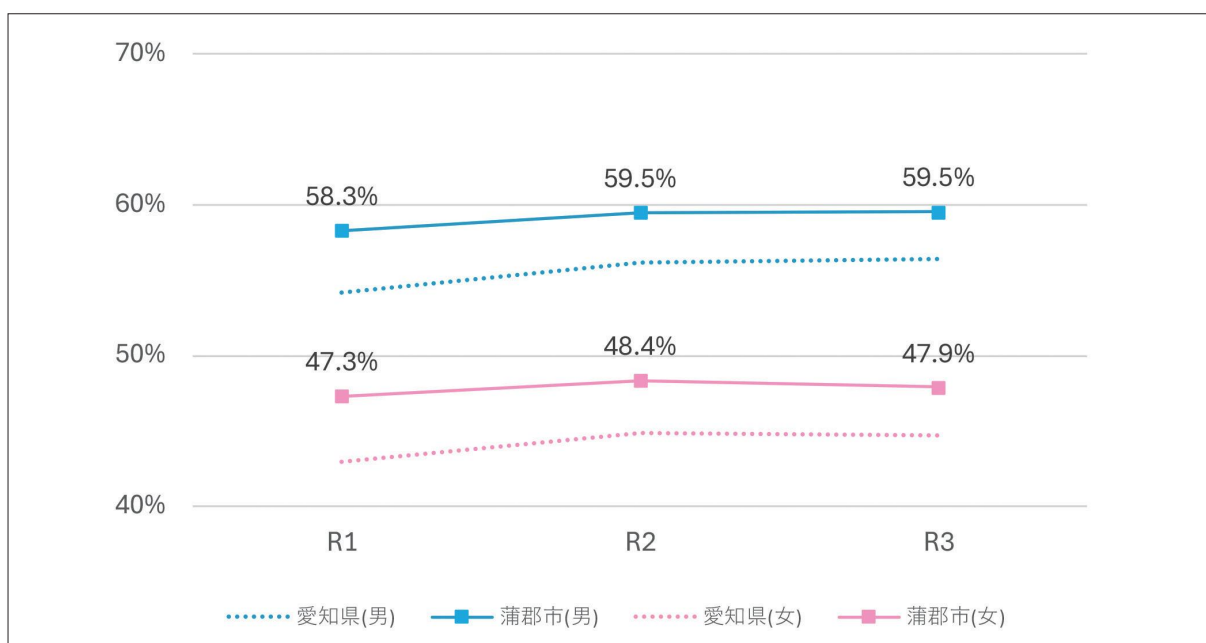
男性では緩やかに上昇傾向にあり、女性はほぼ横ばいで、県平均より男女ともに高い割合で推移しています。



資料：特定健診・特定保健指導情報データを活用した分析・評価

(2) 高血圧該当者（メタボリックシンドローム判定基準による）

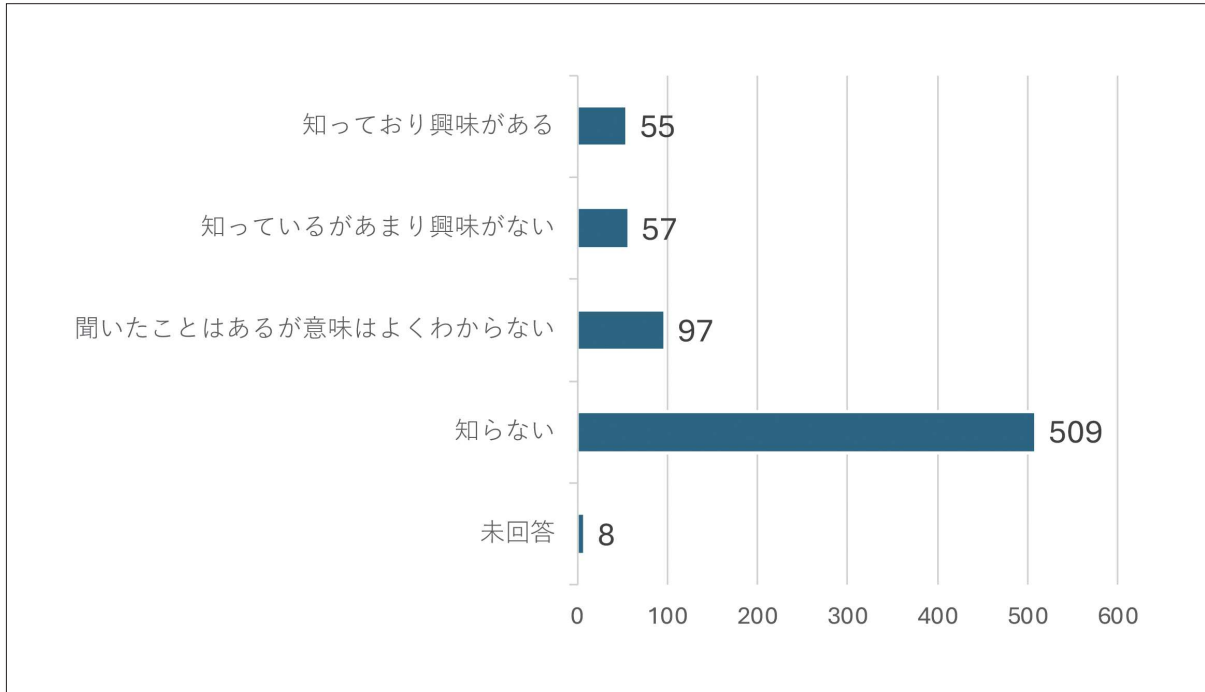
男女とも県平均より高く男女ともに横ばいです。



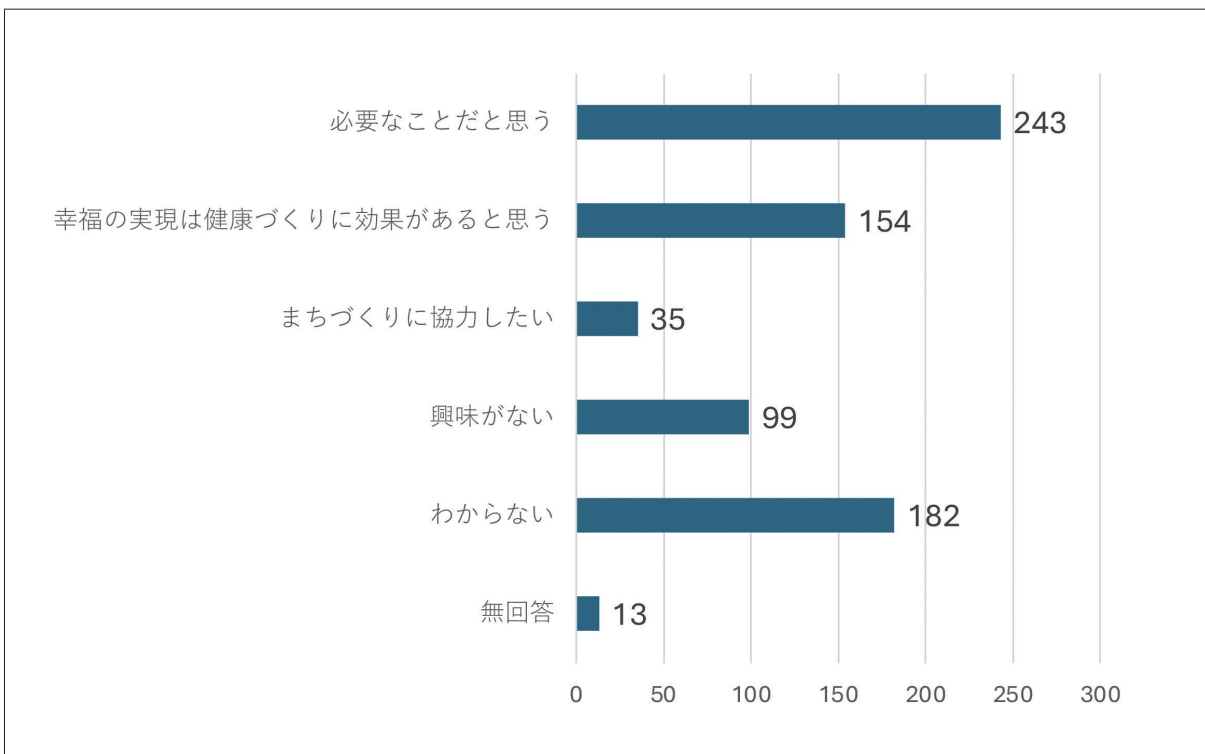
資料：特定健診・特定保健指導情報データを活用した分析・評価

9 市民意識調査（令和6年度）

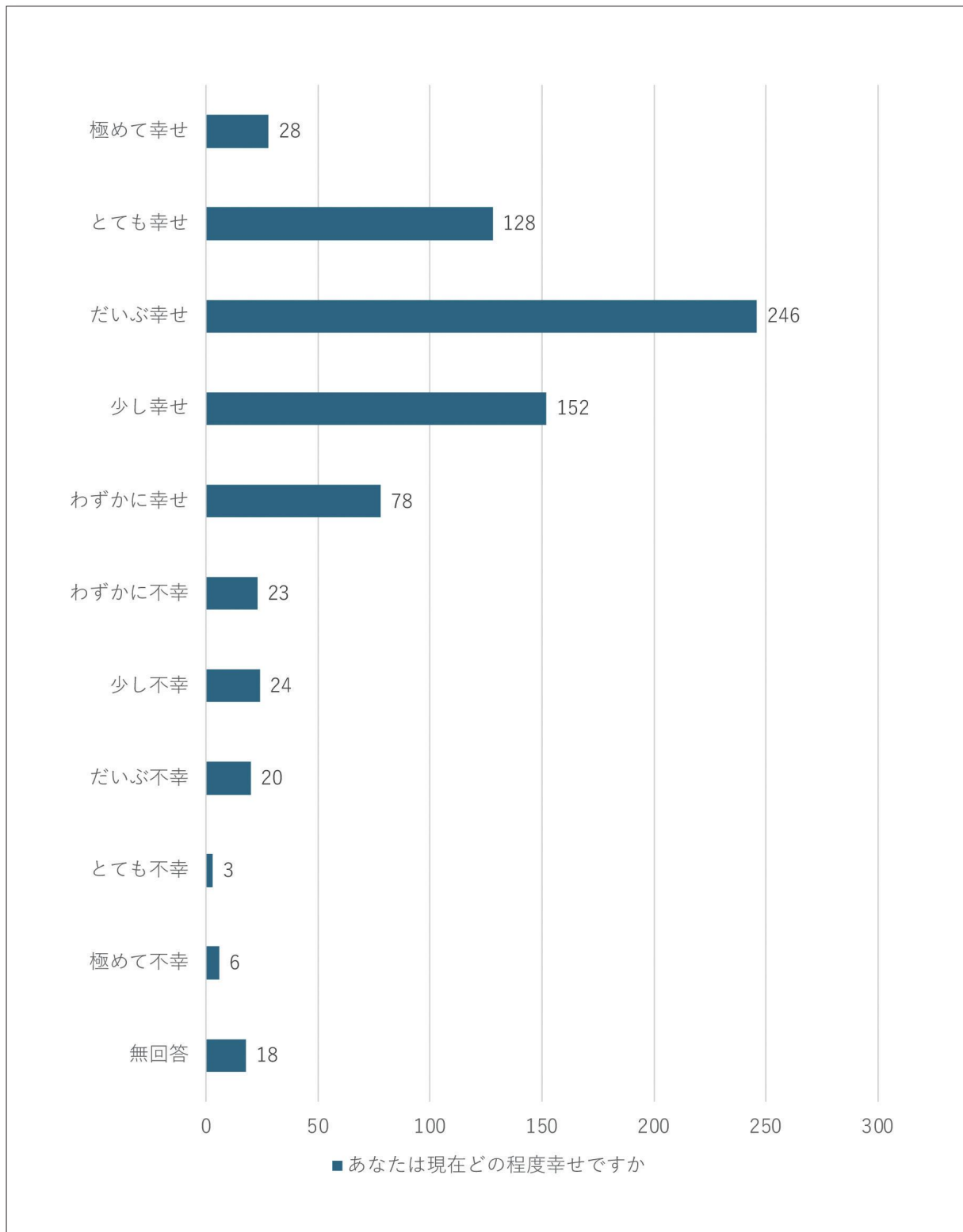
（1）ウェルビーイングという言葉を知っていますか？



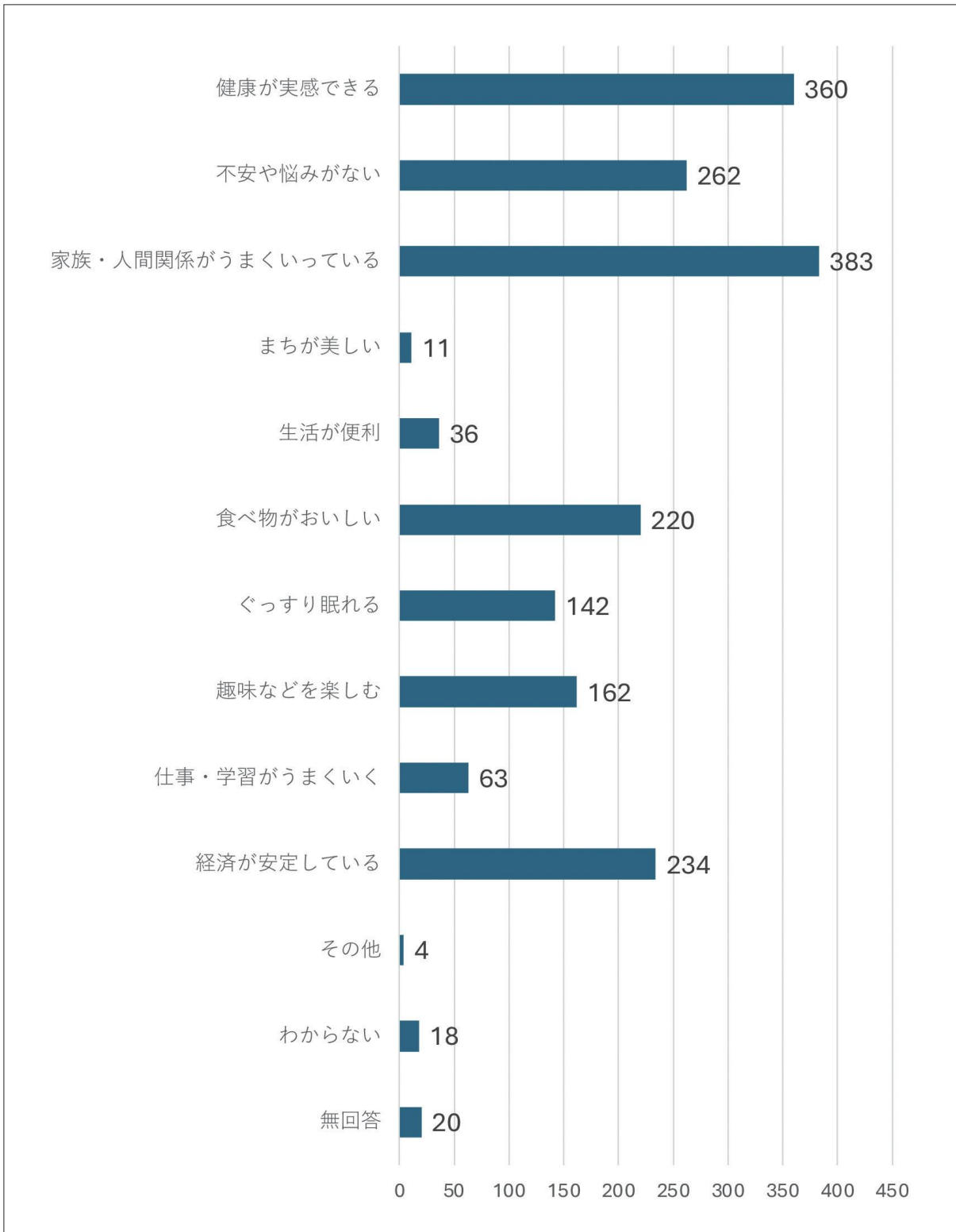
（2）ウェルビーイング達成のための取り組みについて



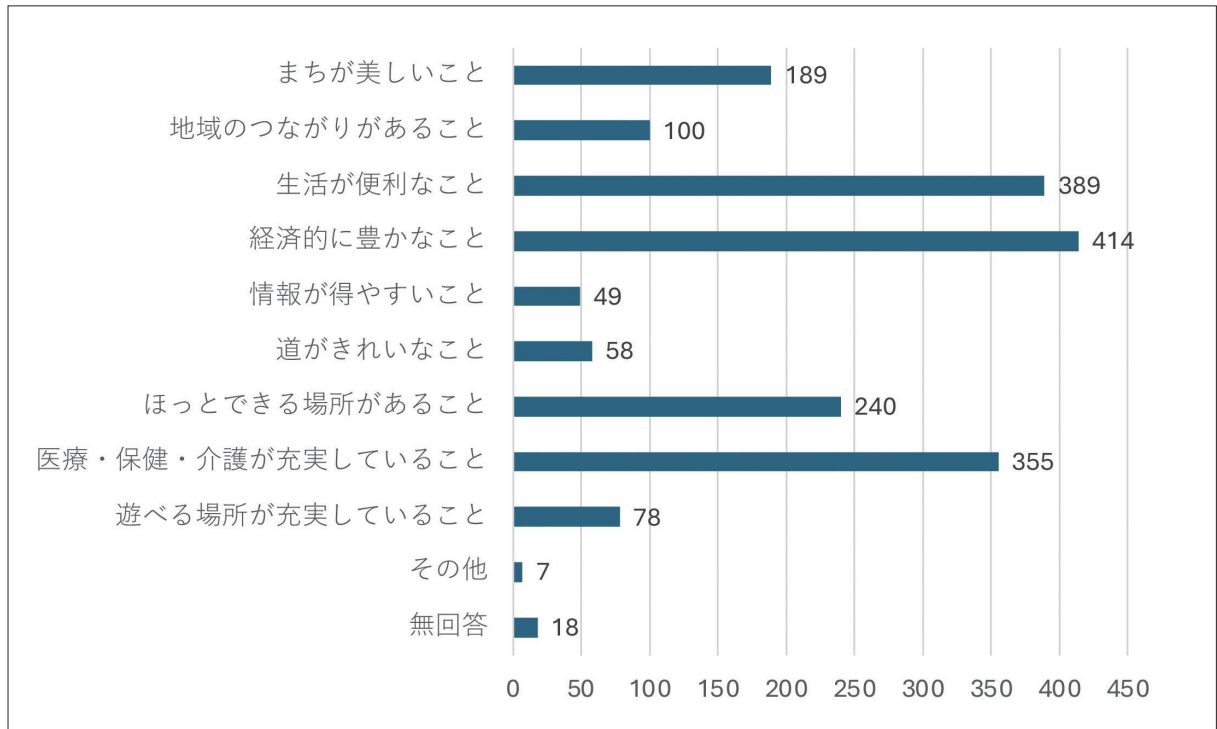
(3) あなたは現在どの程度幸せですか。



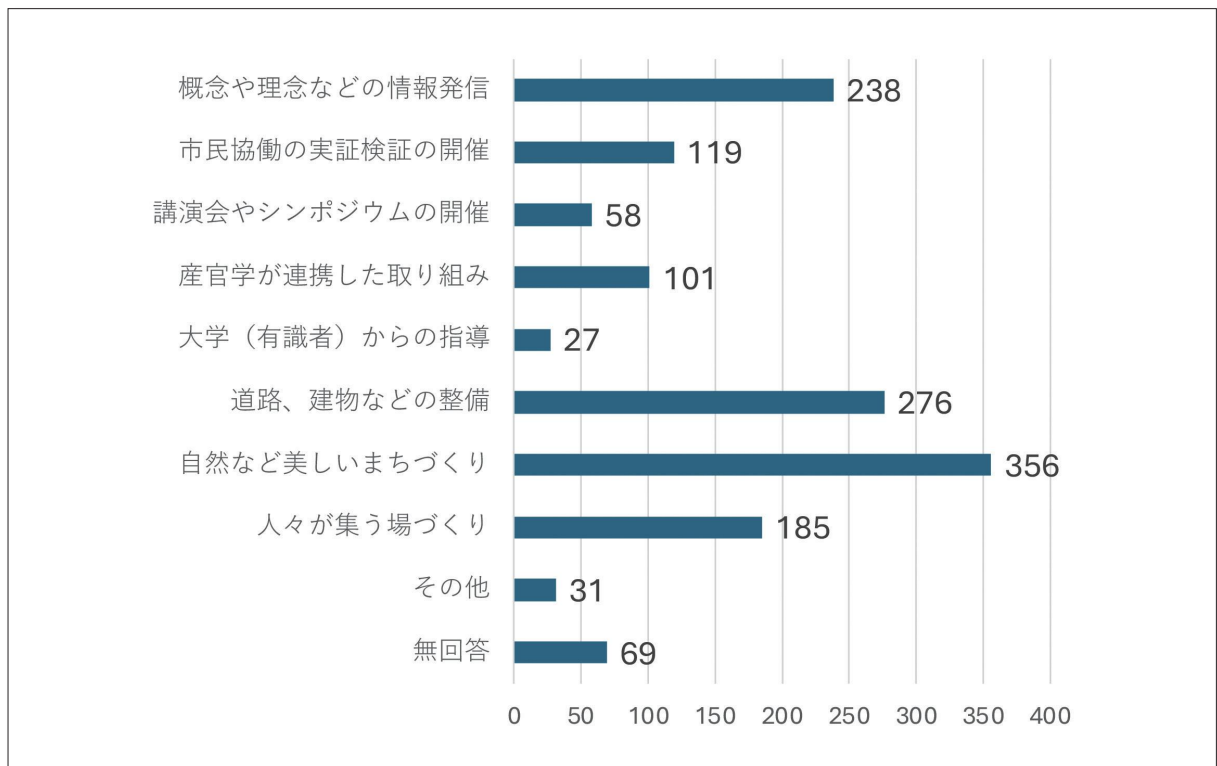
(4) あなたが幸福を感じる時(状態)はどんな時ですか?(3つまで回答可)



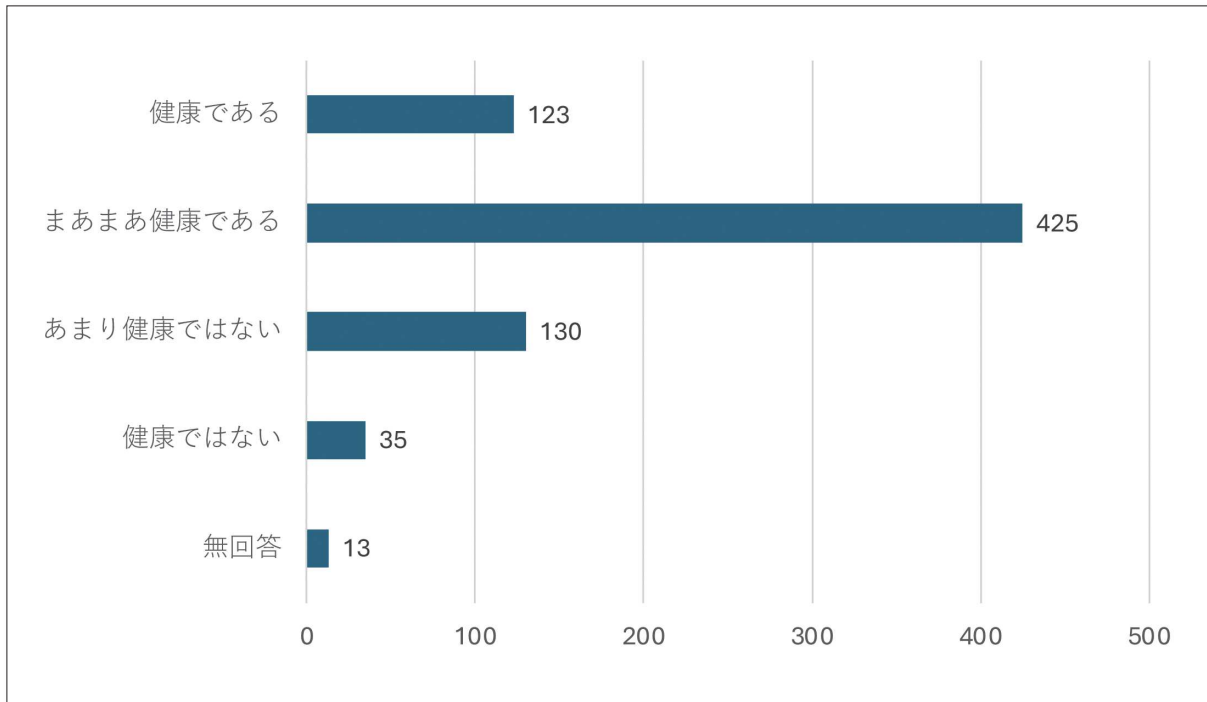
(5) 幸福を感じるまちのために必要と思うことはなんですか？（3つまで回答可）



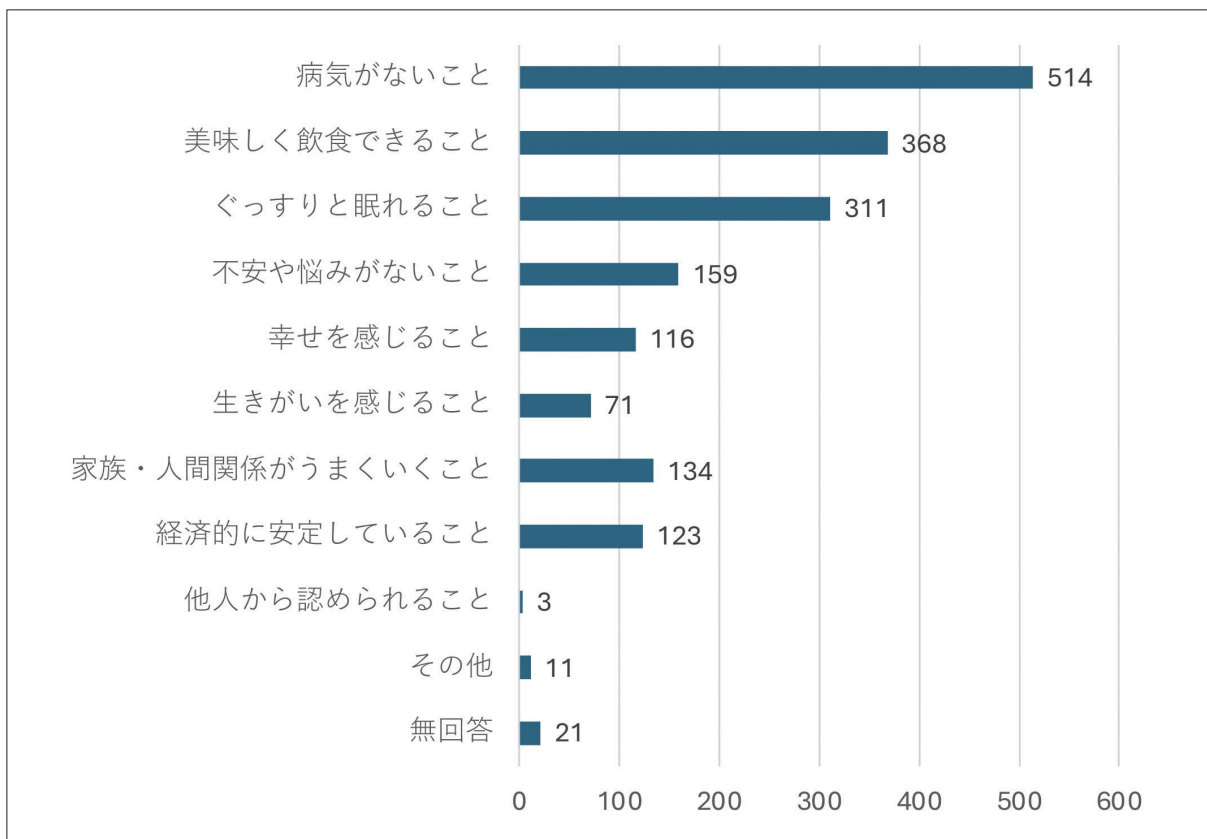
(6) ウェルビーイングなまちづくりに効果的な取り組みは何だと思いますか？



(7) あなたは普段、健康だと感じますか



(8) あなたが健康観を判断する際に重視する事項は何ですか（3つまで回答可）





イネ-ブリソグシティ蒲郡

蒲郡市イネ-ブリソグシティ基本計画

発 行 愛知県蒲郡市

〒443-8601 愛知県蒲郡市旭町 17 番 1 号

電話(代表) 0533-66-1111

ホームページ <https://www.city.gamagori.lg.jp/>

発行年月 2025(令和7)年3月

編 集 蒲郡市ウェルビーイング推進課

e-mail well@city.gamagori.lg.jp